佐久市埋蔵文化財報告書 第95集

市内遺跡発掘調査報告書2000

2002.3

長野県佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財報告書　第95集

市内遺跡発掘調査報告書2000

2002.3

長野県佐久市教育委員会

例　言

1　本書は、平成12年度（2000年度）に試掘調査ならびに立会調査を実施した、長野県佐久市内の個人住宅、民間開発および公共開発の発掘調査報告書である。

2　本調査は、各開発原因者の委託を受けた長野県佐久市教育委員会が実施した。

3　本調査および執筆は各担当者が行い、編集を羽毛田卓也が行った。

4　本遺跡に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

5　調査の体制

事務局　平成13年度（2001年度）

教育長	依田　芙夫（6月退任）				
	尚柳　勉（7月就任）				
教育次長	黒澤　俊彦				
文化財課長	草間　芳行				
文化財係長	荻原　一馬（5月退任）				
	森角　吉晴（6月就任）				
文化財係	林　幸彦	須藤　隆司	小林　眞寿	羽毛田卓也	
	冨沢　一明	上原　学	山本　秀典	出澤　力	
調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子			

目　次

1　輪久遺跡（試掘）
　　後久保遺跡（試掘）
　　上野B遺跡（試掘）
2　尾垂遺跡（試掘）
3　芝宮遺跡群12(試掘)
4　中原遺跡群24(試掘)
5　金山遺跡4(試掘)
6　岩村田遺跡群15(立会い)
7　蛇塚B遺跡群3(試掘)
8　一本柳遺跡群9(試掘)
9　東内池遺跡4(試掘)
10　芝宮遺跡群13(試掘)
11　辻遺跡5(試掘)
12　一本柳遺跡群10(試掘)
13　寺畑遺跡群7(試掘)
14　枇杷坂遺跡群18(試掘)
15　樋村遺跡群2(試掘)
16　寺畑遺跡群8(試掘)
17　岩村田遺跡群26(試掘)
18　番屋前遺跡群13(試掘)
19　中原遺跡群25(立会い)
20　枇杷坂遺跡群19(試掘)
21　岩村田遺跡群27(試掘)
22　芝宮遺跡群14(試掘)
23　西近津遺跡群4(試掘)
24　濱石遺跡3(試掘)
25　中久保田遺跡6(試掘)
26　白山遺跡群3(試掘)
27　長土呂遺跡群4(試掘)
28　野馬窪遺跡群2(試掘)
29　岩村田遺跡群28(試掘)
30　常田居屋敷遺跡群7(試掘)
31　樋橋遺跡（試掘）
32　久禰添遺跡2(立会い)
33　上の城遺跡群7(立会い)
34　周防畑遺跡群11(試掘)
35　東大久保遺跡群2(立会い)
36　円正坊遺跡群3(試掘)
37　白山遺跡群4(立会い)
38　宮田遺跡（試掘）

2000年度（平成12年度）市内遺跡発掘調査遺跡一覧表

2000年度（平成12年度）市内遺跡発掘調査遺跡位置図

試掘調査

1 (1) 輪久遺跡
(2) 後久保遺跡
(3) 上野B遺跡

所　在　地　(1) 佐久市大字根岸字輪久 2672-1
(2) 佐久市大字東立科字後久保 495
(3) 佐久市大字前山字上野 1584-5·6

開発主体者　中部電力株式会社

開発事業名　送電線鉄塔建設

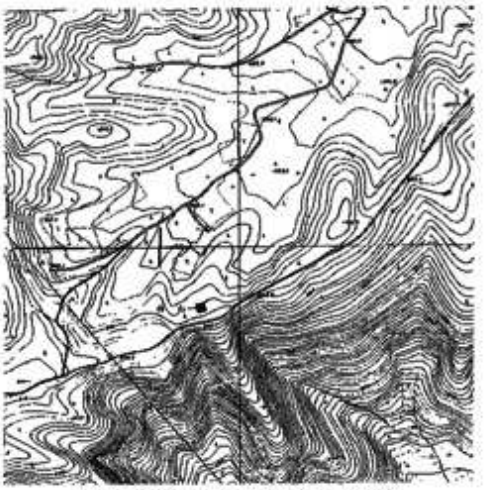
調査期間　(1) 平成 12 年 4 月 17 日～ 28 日
平成 12 年 7 月 10 日～ 17 日
(2) 平成 12 年 4 月 13・14 日
平成 12 年 5 月 1 日～ 23 日
(3) 平成 12 年 8 月 1 日～ 12 日

面　　積　(1) 169 ㎡
(2) 196 ㎡
(3) 256 ㎡

調査担当者　須藤 隆司

(1) 輪久遺跡調査地点（1：10,000）

(2) 後久保遺跡調査地点（1：10,000）


(3) 上野B遺跡調査地点（1：10,000）

立地と経過

中部電力株式会社により八ヶ岳北麓に22箇所の送電線鉄塔建設事業が計画された。八ヶ岳北麓地域の大半は山林であり、遺跡の確認調査は十分に実施されていなかったが、今回の建設予定地には地形・地質的に遺跡の存在が予想される場所が存在していたため、昨年度から試掘調査を開始した。

今年度は建設予定地である№22・№25・№33の3地点で試掘調査を実施した。3地点とも新たに遺物が確認されたため、№22地点を輪久遺跡、№25地点を後久保遺跡、№33地点を上野B遺跡とした。

調査の結果

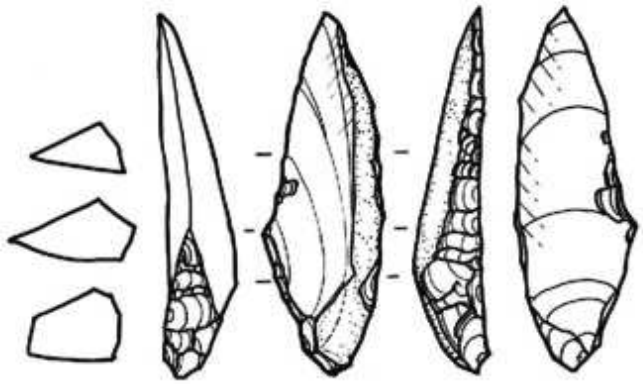
輪久遺跡は丘陵の平坦面に立地する。13ｍ四方の調査区東端10m×4ｍの範囲で158点の遺物と炉址１基が検出された。遺物の出土層位はⅡ層黒褐色土とⅢ層暗褐色土である。Ⅱ層では弥生時代後期の土器片40点が調査区南端３ｍ×１ｍの範囲で出土し、Ⅲ層では縄文時代前期初頭の土器片・石器類118点が出土した。炉址はⅢ層の遺物集中部に伴うもので、直径80cm、深さ70cmの円形土坑である。

後久保遺跡は丘陵の尾根上に立地し、14ｍ四方の調査範囲から220点の遺物と土坑２基が検出された。遺物の出土層位はⅢ層褐色土であり、縄文時代後期初頭の土器片・石器類である。土坑は直径80cm、深さ50cmと直径90cm、深さ70cmの円形土坑である。

上野Ｂ遺跡の16m四方の調査区は、やせ尾根の傾斜変換地点に位置する。表土下はローム層であり、Ⅱ層黄褐色ソフトローム層下部で黒耀石製のナイフ形石器１点が検出された。ソフトロームの最下部では姶良Tn火山灰のブロックが確認され、Ⅲ層ハードローム最上部では八ヶ岳新期第４軽石が確認されている。

輪久遺跡遺物出土状況（西から）

後久保遺跡遺物出土状況（南から）



上野Ｂ遺跡のナイフ形石器（原寸）

試掘調査

2 尾垂遺跡（隣接）

所　在　地　佐久市大字前山字尾垂1221-1外19筆
開発主体者　有限会社 大林
開発事業名　宅地造成
調査期間　平成12年4月12日～18日
面　　積　19,281.82㎡
調査担当者　上原 学

尾垂遺跡位置図（1：10,000）

立地と経過

尾垂遺跡は佐久市前山地籍の蓼科山麓から佐久平に向かって舌状に伸びる尾根の末端付近に展開し、標高は714～736mを測る。調査区は遺跡の北に位置し、南東方向の眼下に真祥寺を認めることができる。

また、調査区内の比較的平坦な地域には、龍覚寺と称する寺院が焼失し、移転して行ったとする言い伝えが残っている。

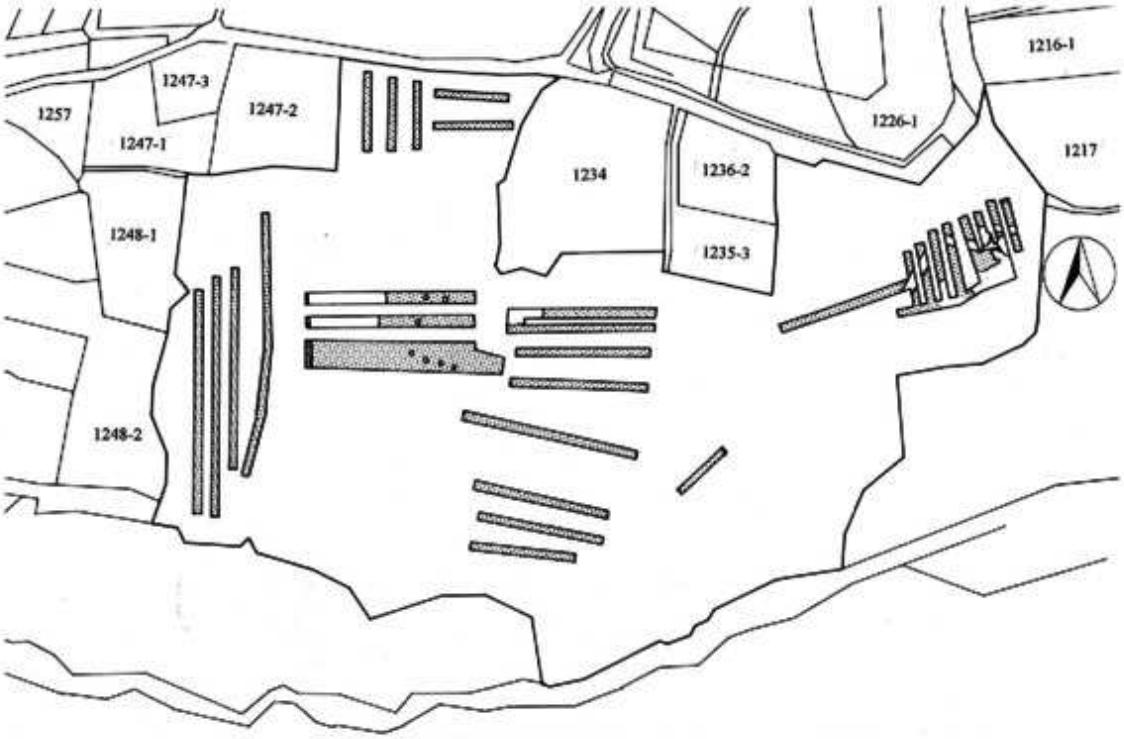
今回、有限会社大林による宅地造成が行われることとなり、遺構の有無を確認するするために試掘調査を行った。

調査の結果

調査区に東西・南北のトレンチを31本設定し、遺構の確認を行った。その結果、調査区北東隅の緩斜面において竪穴住居址4軒以上・溝3条を確認した。遺物は住居址検出面から弥生式土器・鉄鏃等が出土した。

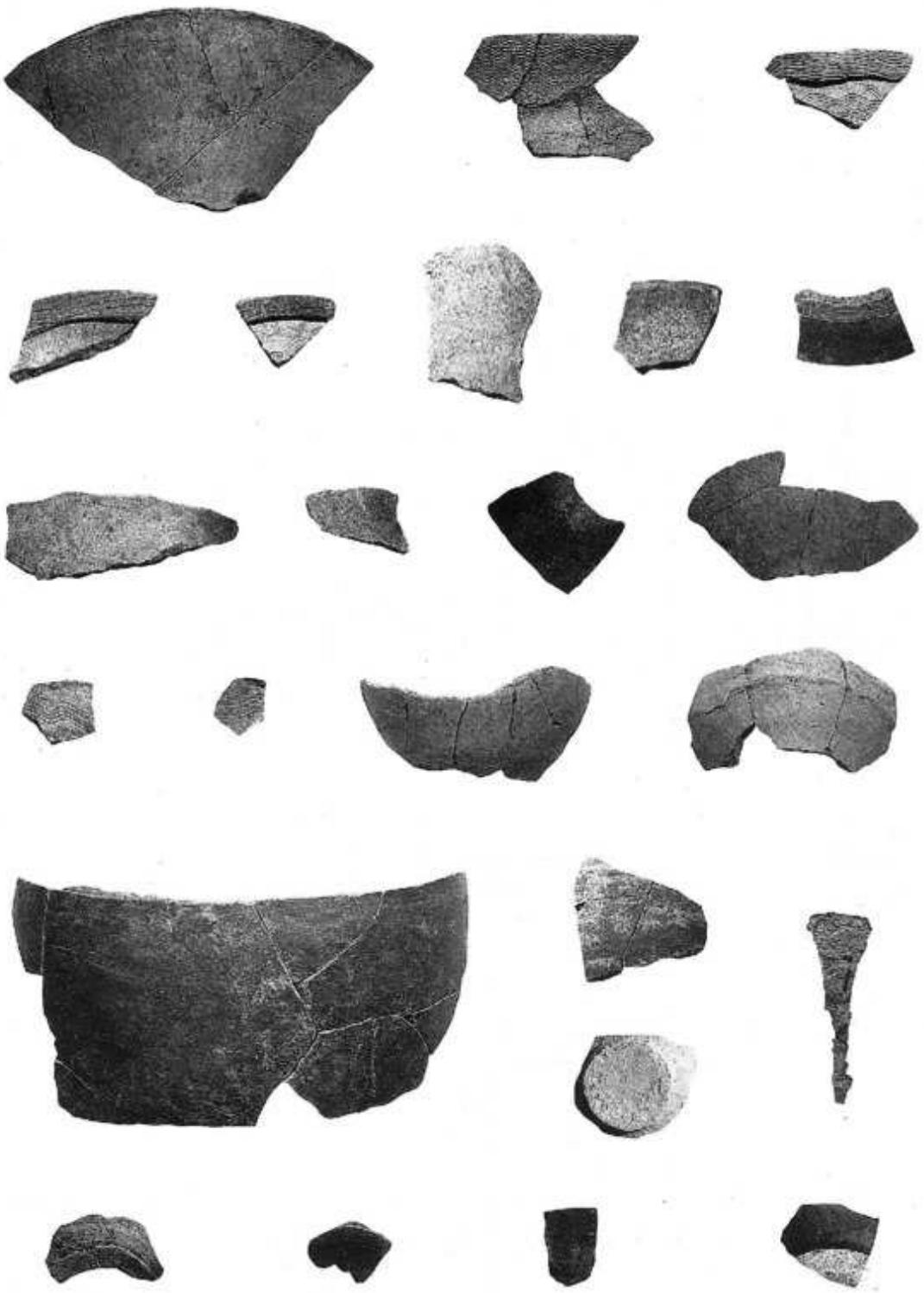
また、龍覚寺が存在していたとされる調査区中央のほぼ平坦な地域では、現地表下30cm付近において焼土・炭化物を多量に含む土層が広範囲に渡り認められ、この中には中世から江戸期と思われるかわらけ・陶器といった遺物が含まれていた。さらに焼土層の西側には南北方向の集石列も存在し、東側には礎石ともとれる石が点在していた。本地域が龍覚寺跡地と即断するに乏しい資料であるが、伝承地域と遺構の焼失跡らしき痕跡が一致したことは興味深い結果である。

調査風景



尾垂遺跡　調査全体図（1：1,000）

調査風景



尾垂遺跡　出土遺物

試掘調査

3 芝宮遺跡群 12

芝宮遺跡群 12 位置図（1：10,000）

所　在　地　佐久市大字長土呂字南下中原 753-1，754-1
開発主体者　株式会社 竹花組
開発事業名　展示場建設
調 査 期 間　平成 12 年 4 月 26・27 日
面　　積　2,554 ㎡
調査担当者　冨沢 一明

調査状況（南から）

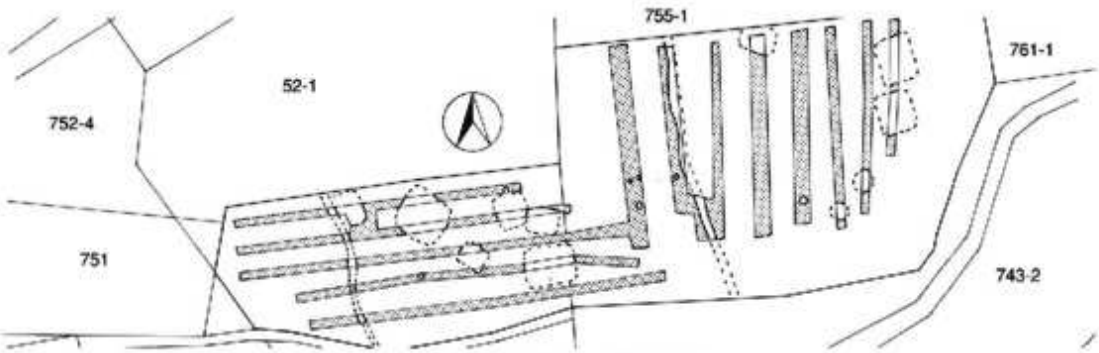
立地と経過

芝宮遺跡群は佐久市大字長土呂に所在し、田切地形に挟まれた台地上に立地する。今回の調査区の北側には昭和63年度に南上中原・南下中原遺跡、平成５年度に南下中原遺跡Ⅱの発掘調査が行われ、古墳時代後期から平安時代の竪穴住居址14棟、掘立柱建物址５棟、竪穴状遺構３棟のほか土坑・溝状遺構・旧河川等が調査されている。今回、株式会社竹花組により展示場建設が計画され、遺構の有無の確認をするため試掘調査を実施した。

調査の結果

調査の結果は対象地が南に緩やかに傾斜する地形で土坑３基・溝状遺構２本の他、西側部分おいて古墳時代の竪穴住居址６軒、東側部分で平安時代住居址３軒が検出された。遺構確認面までの深さは20～50cmであった。

保護協議の結果、一部設計変更がなされ遺構に支障の無いよう盛土され、現状保存となった。



芝宮遺跡群 12 調査全体図（1：1,000）

試掘調査

4 中原遺跡群 24

所　在　地　佐久市大字中込 3713-17
開発主体者　第一ホンダ販売株式会社
開発事業名　店舗建設
調 査 期 間　平成 12 年 5 月 11 日
面　　積　2,124 ㎡
調査担当者　冨沢 一明

中原遺跡群 24 位置図（1：10,000）

立地と経過

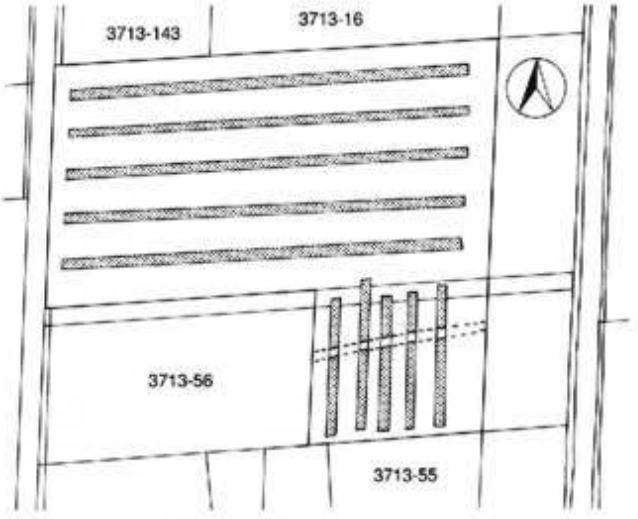
中原遺跡群は佐久市のほぼ中央に位置し、北側に湯川、南側に滑津川に挟まれた台地上に立地する。近年、遺跡の中央を国道バイパスが建設され、大きく環境を変えているエリアである。

今回、第一ホンダ販売株式会社により、店舗建設が計画され、遺構の有無の確認をするため、試掘調査を実施した。

調査の結果

調査対象地に計10本のトレンチを設定し試掘調査を行った。その結果、対象地は南に緩やかに傾斜する地形で、南側部分において底面が硬質化した溝状遺構 1 本が検出された。遺構よりの出土遺物は無かったが、耕作上が溝の中に落ち込むことから近世に近い所産時期が考えられた。保護協議の結果、遺構部分は駐車場となることから現状保存が可能となり、工事は着工された。

調査状況（東より）

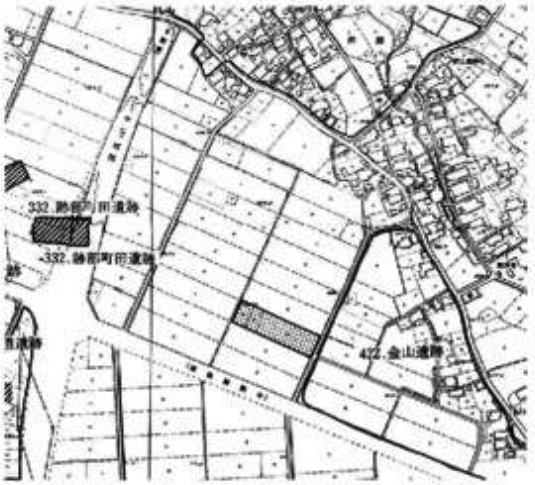


中原遺跡群 24 調査全体図（1：1,000）

試掘調査

5 金山遺跡４（隣接）

所　在　地　佐久市大字跡部字双六 171-2 外３筆
開発主体者　廣岡一生　廣岡右橘
開発事業名　貸し駐車場及び共同住宅建設事業
調 査 期 間　平成 12 年 5 月 26・29 日
面　　積　3,235 ㎡
調査担当者　上原 学



金山遺跡４位置図（1：10,000）

立地と経過

金山遺跡は佐久市跡部地籍の千曲川左岸に広がる沖積地上に展開する。調査区は遺跡の西側に隣接する地域に位置し、標高は668mを測る。また、調査区南側では平成10年度に中部電力営業所建設に伴い5,000㎡の試掘調査が行われ、竪穴住居址４軒が確認されている。

今回、廣岡一生氏、廣岡右橘氏による貸し駐車場及び共同住宅建設事業が行われることとなり遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

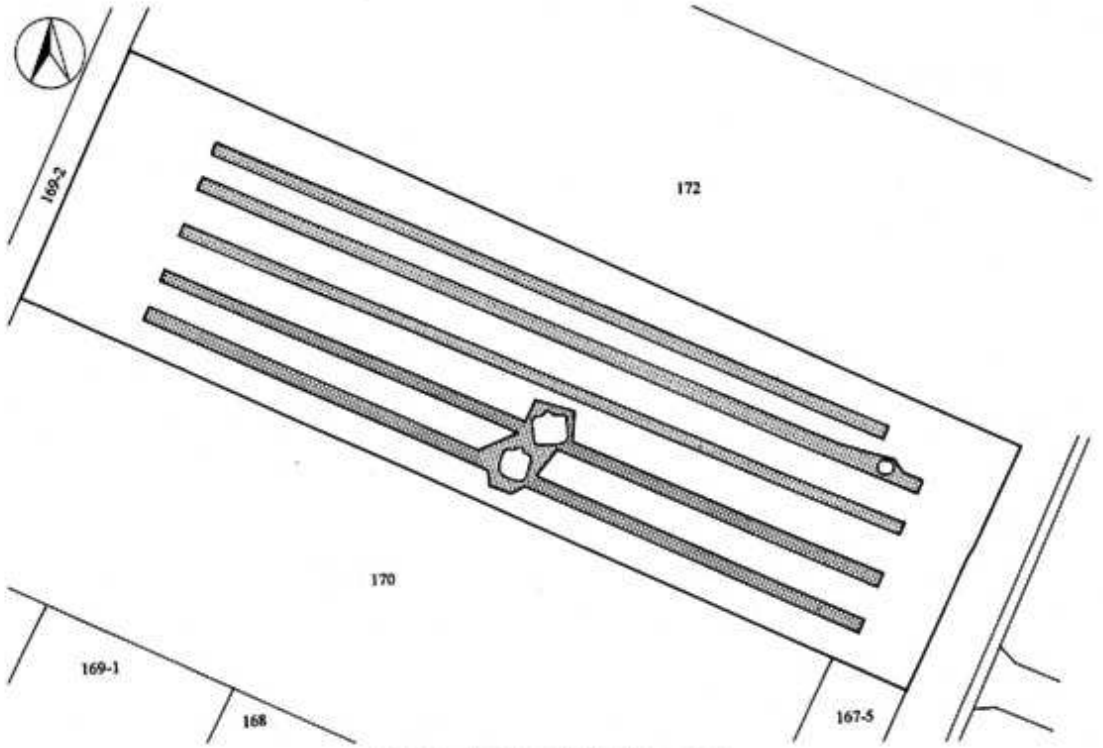
調査の結果

調査区に東西方向のトレンチ５本を設定し遺構の確認を行った。その結果、調査区南側の第一・第二トレンチのほぼ中央付近にて竪穴住居址２軒、第四トレンチの東にて土坑を１基確認し、それぞれ拡張作業を行った。遺物は住居址検出面から土師器片が数片出土した。

調査終了後、開発主体者と協議を行い、遺構付近には構造物が建てられないことから、検出された遺構は埋め土保存する運びとなった。

調査風景（北から）

調査風景（東から）



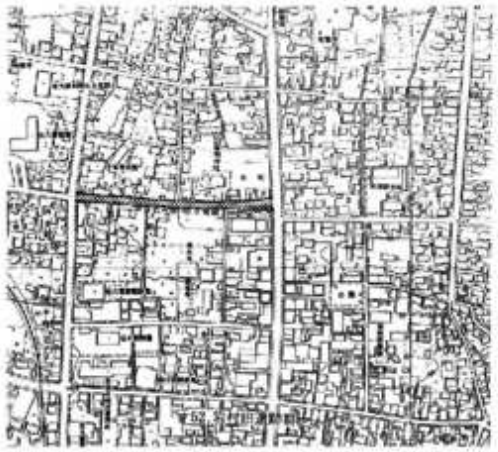
金山遺跡4（隣接）調査全体図（1：1,000）

住居址検出状況

試掘調査

6 岩村田遺跡群 25

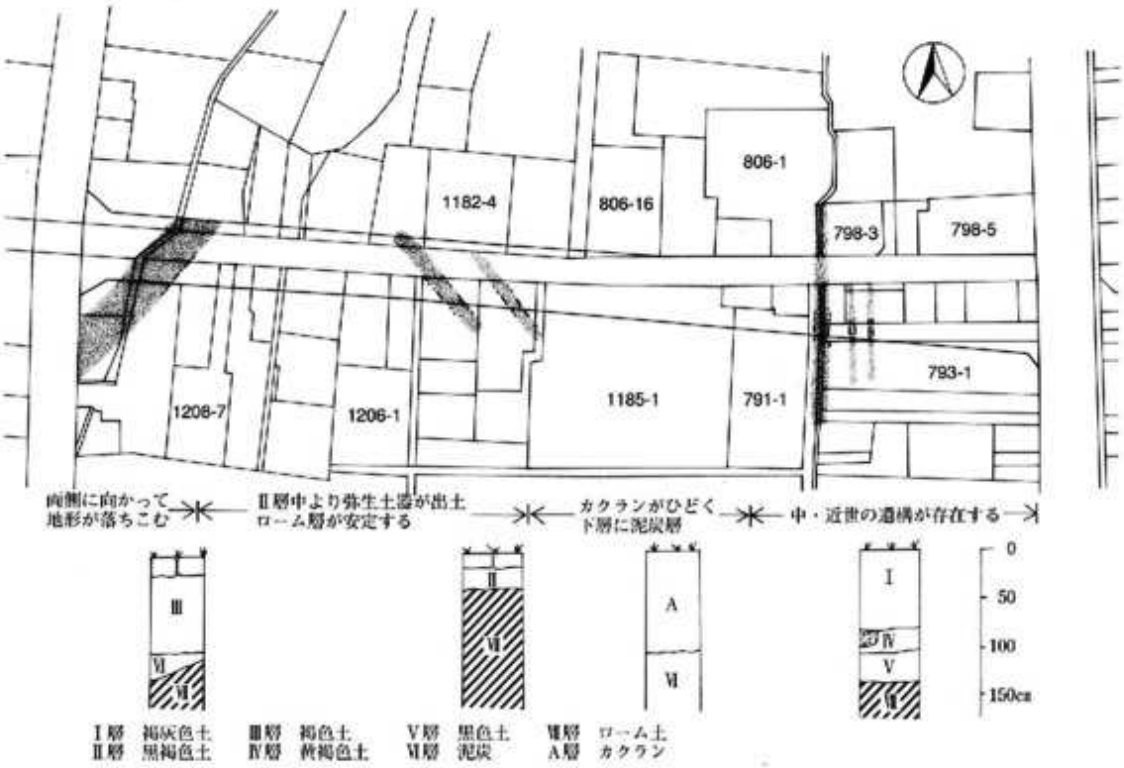
所　在　地　佐久市大字岩村田 796-15
開発主体者　佐久建設事務所
開発事業名　水道・ガス管の設置工事
調 査 期 間　平成 12 年 6 月 5 日～ 22 日
面　　積　216 ㎡
調査担当者　冨沢 一明



岩村田遺跡群 25 位置図（1：10,000）

立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市の北部、現在の岩村田市街地を中心とする遺跡群である。当遺跡群の特徴は遺跡群東方にある中世に佐久地域で活躍した大井氏の居城であった黒岩城・王城・石並城跡や中仙道の宿場町として栄えた岩村田宿の中心街などがあることから、中世から近世にかけての遺跡が非常に密度ある状態で広がっていることである。周辺部で調査された遺跡としては柳堂遺跡・内西



岩村田遺跡群 25 調査全体図（1：2,000）

浦遺跡・観音堂遺跡・中宿遺跡などがあり、いずれも中世の所産と考えられている。

今回、遺跡群内に佐久建設事務所により県道岩村田停車場線に新設の水道・ガス管設置の工事が計画された。ただ、遺構の存在も十分に考えられたが工事幅が90cmであり、立会い調査をすることとなった。

調査の結果

調査を行った結果は、東側部分で中世と考えられる井戸・溝状遺構・土坑が検出された。中央部はローム層が検出され弥生時代後期の土器片が出土し、自然流路跡も2本確認された。西側は西に向かって大きく落ち込む地形で、一部泥炭層も確認された。

立会い状況（西より）

ピット検出状況

試掘調査

7 蛇塚B遺跡群3

所　在　地　佐久市大字新子田字ミセキ 1795-3
開発主体者　中澤健一郎
開発事業名　共同住宅建設
調 査 期 間　平成 12 年 6 月 13・14 日
面　　積　1,834 ㎡
調査担当者　冨沢 一明

蛇塚B遺跡群3位置図（1：10,000）

立地と経過

蛇塚B遺跡群は佐久市大字新子田に所在し、湯川と南北に伸びる田切地形に挟まれた帯状の台地上に位置する。周辺部では蛇塚B遺跡が調査され、平安時代の住居址等が検出されている。調査対象地は南東に緩やかに傾斜する地形で、東側に浅い田切が存在する。

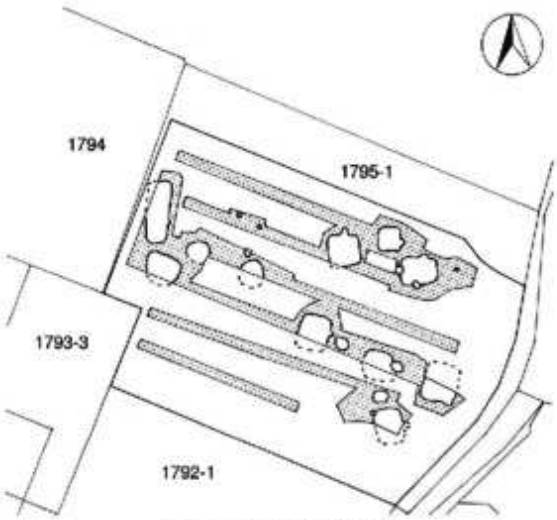
今回、遺跡群内に共同住宅建設が計画され、遺構の有無の確認のため試掘調査を行った。

調査の結果

調査の結果は、対象地全体に遺構の広がりが確認できた。検出された遺構は竪穴住居址10軒（縄文時代3軒・平安時代7軒）、竪穴状遺構1基、土坑6基等である。遺構の確認面までは、10～30㎝の深さであり、確認面は浅間火山灰層（P1）であった。

保護協議の結果、一部設計変更がなされ盛土による現状保存がなされ工事が着工された。

調査状況（東より）



蛇塚B遺跡群3調査全体図

試掘調査

8 一本柳遺跡群 9

所　在　地　佐久市大字岩村田字東一本柳 2249-13
開発主体者　株式会社 堀内組
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成 12 年 6 月 16 日
面　　積　2,891 ㎡
調査担当者　冨沢 一明

一本柳遺跡群 9 位置図（1：10,000）

立地と経過

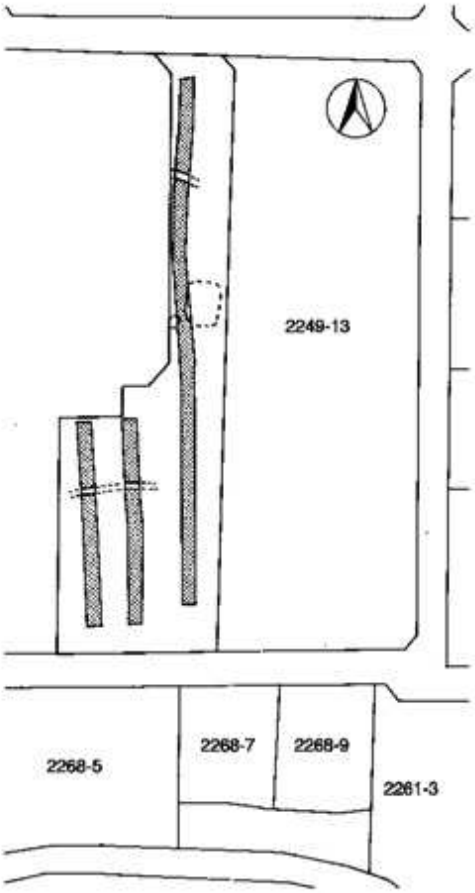
一本柳遺跡群は佐久市岩村田に所在し東西方向に流れる湯川の右岸台地上に位置する。当遺跡群は田切に挟まれた台地上に東西に長く広がっており、中央部から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央部北側を北一本柳遺跡とそれぞれ呼称している。この内、近年にいたり西一本柳遺跡の中央を国道バイパス建設がなされ、それに伴う調査により弥生時代中期から平安時代にいたる大集落が検出され、佐久地域において有数の遺構密集地帯であることが改めて認識された。今回、株式会社堀内組により遺跡群内の東側にあたる東一本柳遺跡内で宅地造成の計画がなされ、遺構の有無の確認のため試掘調査が行われた。なお開発面積は2,891㎡であるが、既に過去に調査済みの部分が存在したため、未調査の678㎡について試掘調査を行った。

調査の結果

試掘調査の結果、対象地は北側に緩く傾斜する地形であり、遺構確認面までの深さは北側で60cm、南側で30cmを測る。検出された遺構は弥生時代中期の竪穴住居址１軒、溝状遺構２本、土坑１基である。なおこの竪穴住居址は焼失住居址と考えられ多量の炭化材が確認できた。

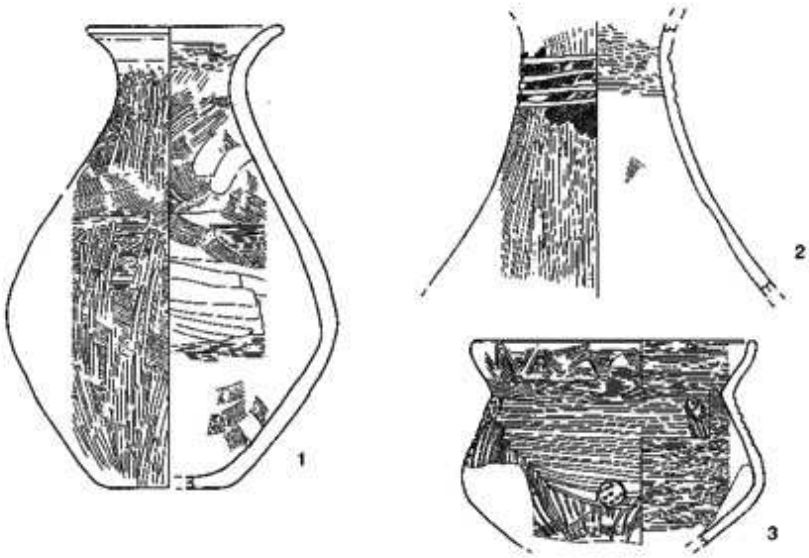
調査ののち保護協議がなされ、工事深度が遺構に影響しないため現状保存が可能と判断され工事が着工された。

調査風景（北から）



調査全体図（1：1,000）

図示した遺物はいずれも竪穴住居址より出土したものである。1は壺で口径10cm・器高23.2cm・底径6.7cmを測る。調整は外面がハケメ調整の後胴部縦位のヘラミガキが施されている。内面はハケメ調整の後ヘラナデ、口縁部は横方向のヘラミガキがある。またこの壺内面は赤色顔料を保存したのか赤化していた。2は壷頸部の破片であり、文様は外面が頸部に単節縄文を施文の後、4本の平行沈線を施す。調整は縦方向のヘラミガキを施す。内面の調整は頸部上部が横方向のヘラミガキを施す。3は甕の口縁部から胴部の破片であり、口径は推定で14.7cmを測る。文様は胴部に「コ」の字重文を施文後、頸部と胴部最大径付近に刺突のあるボタン状貼付文が施されている。



出土遺物実測図（1：4）

試掘調査

9 東内池遺跡４

所　在　地　佐久市大字新子田字東内池 1712-4
開発主体者　小平　亀市
開発事業名　共同住宅建設
調 査 期 間　平成 12 年 6 月 21・22 日
面　　積　1,129 ㎡
調査担当者　冨沢　一明

東内池遺跡４位置図（1：10,000）

立地と経過

東内池遺跡は佐久市新子田に所在し、南北に伸びる小さな田切に挟まれた台地上に位置する。周辺部の調査された遺跡としては蛇塚Ｂ遺跡、高師町遺跡Ⅰ・Ⅱなどがある。今回、小平亀市氏により共同住宅建設が計画され、遺構の有無確認のため試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

試掘調査の結果、対象地は南に緩く傾斜する地形で、表土下50～60cmに厚さ５～10cmの砂層が調査地点全体に堆積していた。この砂層下からは窪みに砂が堆積する状況で畝状遺構が確認された。この畝は南北方向に長く少なくとも２つの単位が確認できた。遺構確認面までの深さは北側で 60 cm、南側で１ｍを測る。この畝の所産時期は出土遺物が無かったため推測の域を出ないが、同様な条件下で畝状遺構が検出されている前藤部遺跡や栗毛坂遺跡の類例から判断すると平安時代を遡り得ると考えられる。調査ののち保護協議がなされ、工事深度が遺構に影響しないため現状保存が可能と判断され工事が着工された。

調査状況（北より）

東内池遺跡４調査全体図（1：1,000）

試掘調査

10 芝宮遺跡群 13

所　在　地　佐久市大字長土呂字上芝宮 7771-14 外 9 筆
開発主体者　前川産業株式会社
開発事業名　工場増築
調 査 期 間　平成 12 年 6 月 22 日
面　　積　900 ㎡
調査担当者　小林 眞寿

芝宮遺跡群 13 位置図（1：10,000）

立地と経過

芝宮遺跡群は佐久市長土呂に所在し、田切地形に挟まれた台地上に立地する。本遺跡群では古墳時代から平安時代の集落跡が確認されている。今回の調査対象地は遺跡群の東端部に位置する。

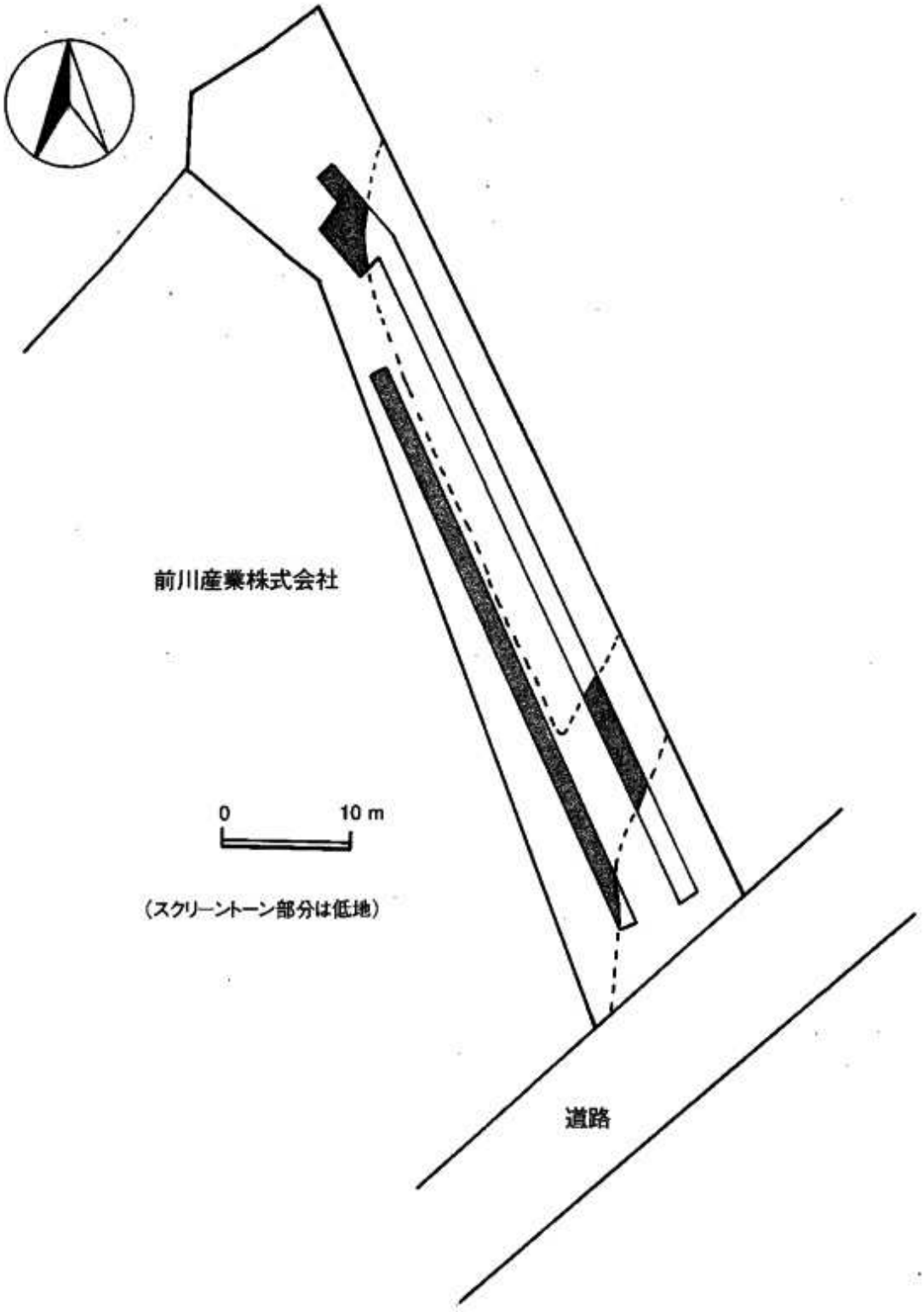
今回、前川産業株式会社による工場の増築が行われることとなり遺構の有無を確認するため、試掘調査を実施した。

調査の結果

調査対象地（面積 900 ㎡）内に南北方向のトレンチを 2 本掘り下げ遺構の確認を行った。

今回の調査地は耕作土を除去後に 1 ～ 2 mの盛土がなされている。基盤層である浅間火山軽石流の堆積層（P1）上面において遺構の確認を行ったが、「田切り」谷の埋没による低地が広がっており、遺構・遺物ともに確認されなかった。

調査状況



芝宮遺跡群 13 調査全体図

試掘調査

11 辻遺跡5

所　在　地　佐久市大字野沢字辻 586-3,586-1
開発主体者　和田 正
開発事業名　店舗建設
調 査 期 間　平成 12 年 6 月 30 日
面　　積　1,135 ㎡
調査担当者　冨沢 一明

辻遺跡5位置図（1：10,000）

立地と経過

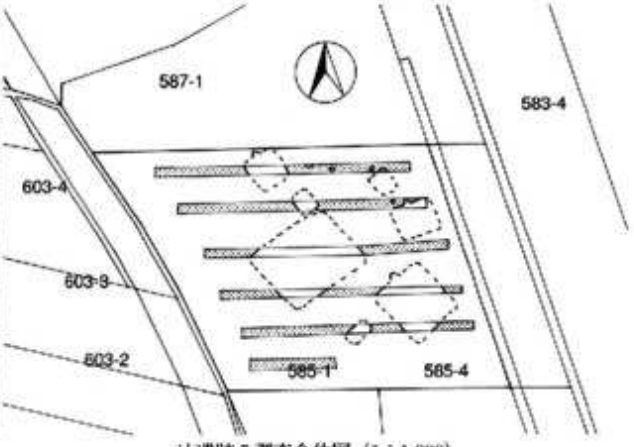
辻遺跡は千曲川と片貝川に挟まれた帯状の微高地上にあり、南には儘田遺跡、北には三千束遺跡群が分布している。今回の試掘調査地点の北側にあるコンビニエンスストア店建設の際に行われた試掘調査でも古墳～奈良時代の竪穴住居址が4棟発見され、その東側においても店舗建設にさいしても古墳時代の住居址4軒が確認されている。これらの調査により当遺跡周辺部は圃場整備が行われた水田下にも遺跡が存在することが判明した。今回、和田正氏により店舗建設が計画され、遺跡の有無確認のため試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

試掘調査の結果、表土下40cmに遺構が確認された。遺構確認面は黄色シルト層であった。確認された遺構は古墳時代中期～後期の竪穴住居址6軒であり、出土遺物は土師器・須恵器・臼玉等があった。これら住居址は1993年に試掘調査された北側の住居址群とほぼ時期を同じくし、今回の検出された住居址も含め周辺部に集落址を形成していたことが推測できた。

試掘調査の結果を受けて保護協議がなされ盛土保存することが決まり、工事が着工された。

調査状況（東より）

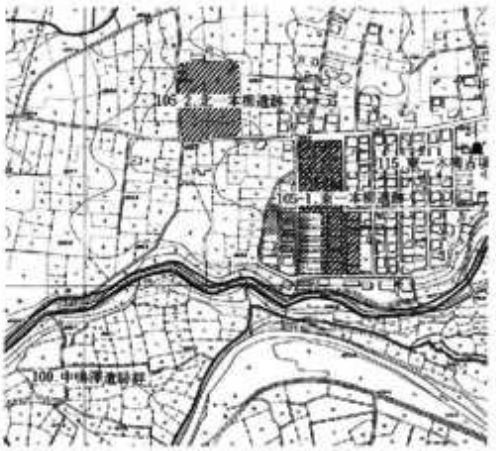


辻遺跡5調査全体図（1：1,000）

試掘調査

12 一本柳遺跡群 10

所　在　地　佐久市大字岩村田字東一本柳 2249-3
開発主体者　中川商事株式会社
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成 12 年 7 月 4 ～ 6 日
面　　積　3,441 ㎡
調査担当者　冨沢 一明



一本柳遺跡群 10 位置図（1：10,000）

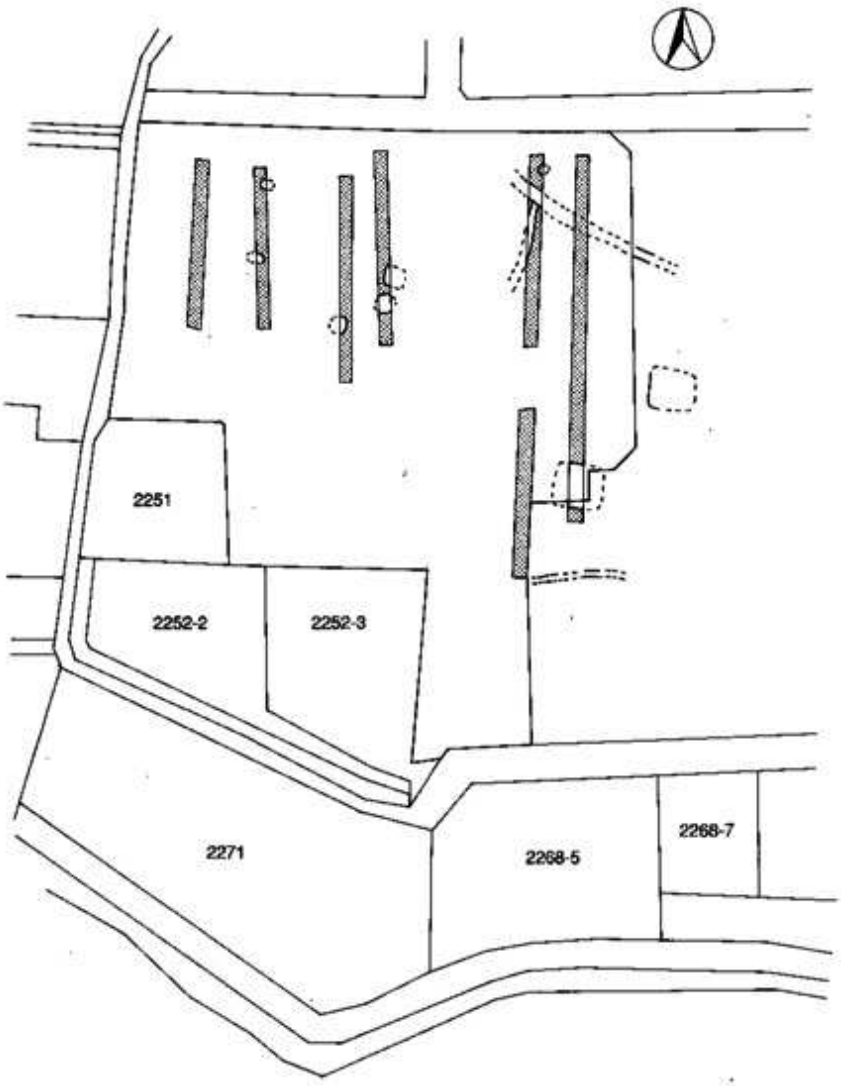
立地と経過

一本柳遺跡群は佐久市岩村田に所在し東西方向に流れる湯川の右岸台地上に位置する。当遺跡群は田切に挟まれた台地上に東西に長く広がっており、中央部から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央部北側を北一本柳遺跡とそれぞれ呼称している。この内、近年にいたり西一本柳遺跡の中央を国道バイパス建設がなされ、それに伴う調査により弥生時代中期から平安時代に至る大集落が検出され、佐久地域において有数の遺構密集地帯であることが改めて認識された。今回、中川商事株式会社により遺跡群内の東側にあたる東一本柳遺跡内で宅地造成の計画がなされ、遺構の有無の確認のため試掘調査を行われた。

調査の結果

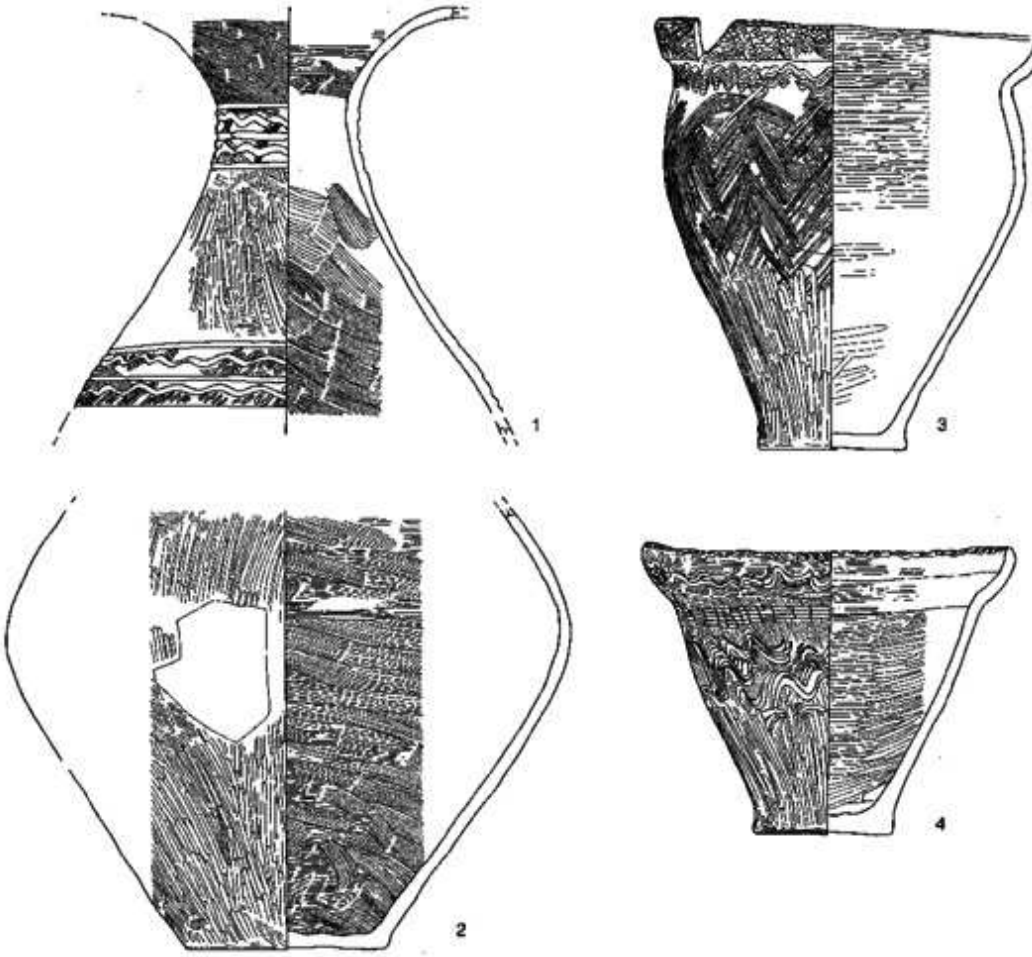
試掘調査の結果、対象地は北側に緩く傾斜する地形であり、遺構確認面までの深さは北側で50～60cmを測る。検出された遺構は弥生時代中期の竪穴住居址1軒と土坑である。なおこの竪穴住居址は焼失住居址と考えられる多量の炭化材が確認できた。調査ののち保護協議がなされ、工事深度が遺構に影響しないため現状保存が可能と判断され工事が着工された。

調査風景（北より）



調査全体図（1：1,000）

図示した遺物はいずれも住居址より出土した。1と2はそれぞれ壷の上半部分と下半部分である。同一個体と考えられるが接合点は見出せなかった。また1と2の胴部割れ口は磨り減ったような磨耗痕が認められ何らかの転用が考えられた。1の文様は頸部と胴部に3条のヘラ描横走平行線文と平行線間にそれぞれヘラ描連続山形文と単節縄文が施されている。調整は頸部下から胴部上半は縦方向のヘラミガキ、口縁部はハケメの残るナデが施されている。3は甕であり、口縁部の一部を欠損する他はほぼ完形である。形状は口縁部が受け口状を呈し、胴部上半に最大径を有する。文様は口縁部上半と口唇部に単節縄文を施文し、頸部と口縁部下半部には4本一組の櫛描波状文が2条巡る。胴部上半には3本～5本一組の櫛描斜走平行線文が左右交互に縦方向に施文されている。調整は胴部下半が縦方向のヘラミガキ、内面が横方向のヘラミガキが施されている。4は甕である。口



出土遺物実測図（1：4）

縁部と胴部の一部を欠損するがほぼ全容が把握できる。形態は受け口状の口縁を呈し、口縁部に最大径を有する。文様は口唇部にヘラによる刻み目、口縁部と胴部上半には深く粗い櫛描波状文が巡り、頸部には５本一組の櫛描簾状文が施されている。調整は胴部下半が縦方向のヘラミガキ、内面が横方向のヘラミガキが施されている。

試掘調査

13 寺畑遺跡群 7

所　在　地　佐久市大字猿久保字下原 588-4
開発主体者　株式会社小泉中部
開発事業名　店舗・倉庫建設
調 査 期 間　平成 12 年 7 月 6 日
面　　積　2,644 ㎡
調査担当者　小林 眞寿

寺畑遺跡群 7 位置図（1：10,000）

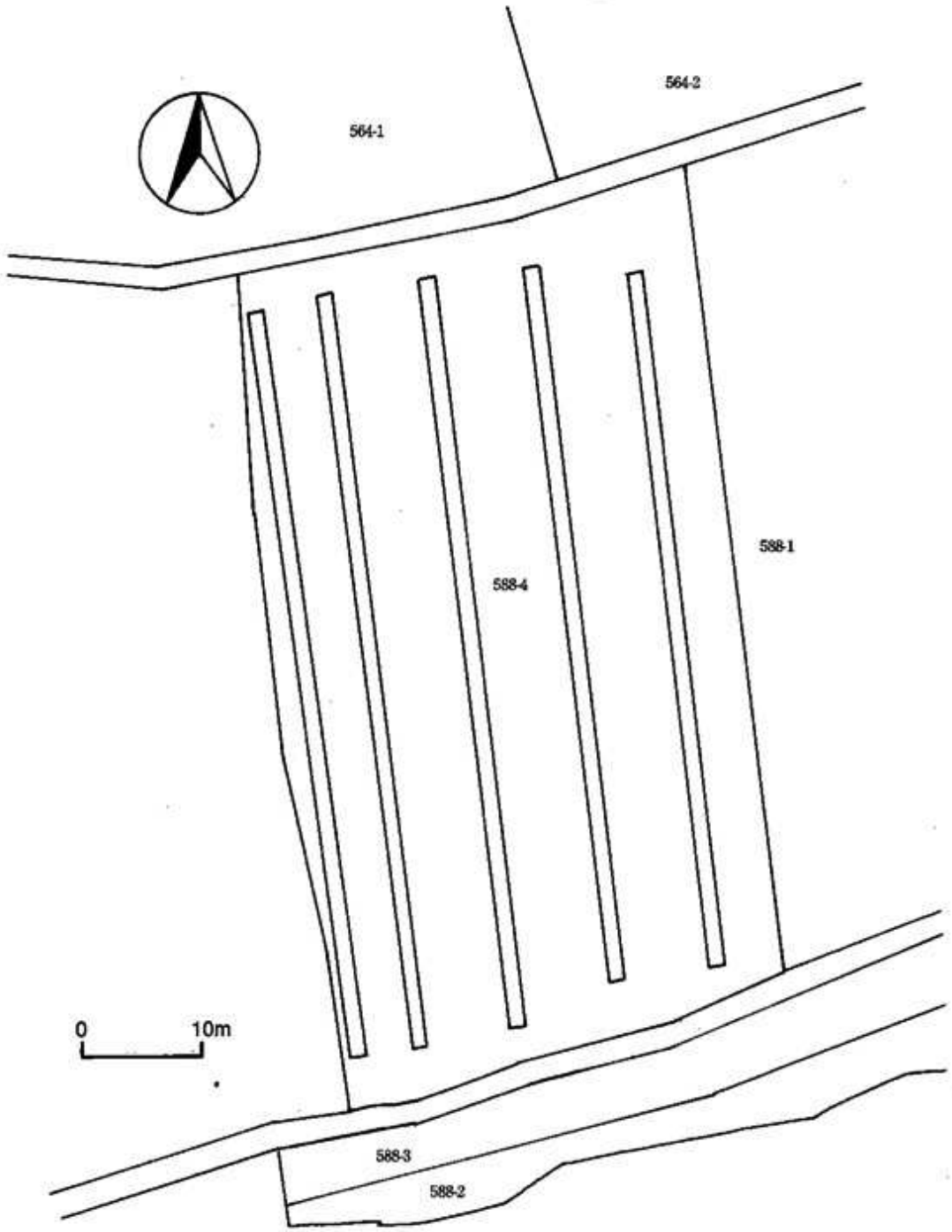
立地と経過

寺畑遺跡群は湯川南側の第 1 河岸段丘上に展開する複合遺跡である。平成 7 年度の道路整備事業に伴う調査では古墳～平安時代の遺構・遺物とともに、縄文時代草創期の爪形文土器と同時代の石器の良好な資料が検出されている。また、平成 8 年に行われた試掘調査では、遺物は確認されていないが、道路址と思われる溝が検出されている。今回、株式会社小泉中部による店舗・倉庫建設が計画されたため、試掘調査を実施した。

調査の結果

南北方向に 5 本のトレンチを設定し、浅間山第一軽石流の堆積層の上面において構の存在を確認したが、遺構・遺物共に存在しなかった。

調査状況



寺畑遺跡群７調査全体図

試掘調査

14 枇杷坂遺跡群 18

所　在　地　佐久市大字岩村田北一丁目 30-1・2
開発主体者　大井 政直
開発事業名　長屋建住宅及び店舗付共同住宅新築
調 査 期 間　平成 12 年 7 月 10・11 日
面　　積　1,780 ㎡
調査担当者　上原 学

枇杷坂遺跡群 18 位置図（1：10,000）

立地と経過

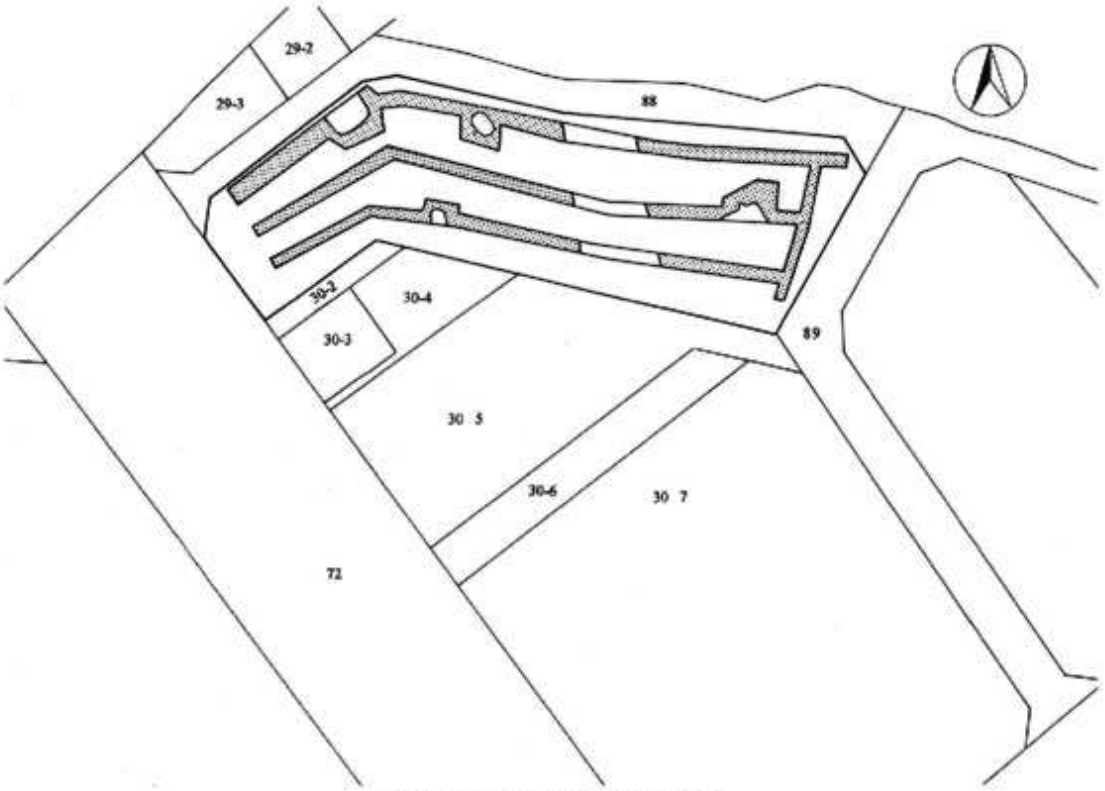
枇杷坂遺跡群は岩村田市街地の北西をおよそ南北方向に伸びる田切り地形の台地上に展開する。調査区は遺跡群の北、上信越自動車道佐久インターチェンジの西100mに位置し、西に隣接する地域は現在は埋め立てられているものの以前は南北方向の田切りが存在していた。調査区付近の標高は735m内外を測る。

調査の結果

調査区におよそ東西、南北方向のトレンチ４本を設定し遺構の確認を行った。その結果、調査区内は１m前後の厚さで埋め土されていることが確認され、遺構検出は現地表から1.2m～1.8mの黄褐色土上面で行った。検出された遺構は竪穴住居址２軒、土坑２基以上、溝または谷状地形１状である。遺物は住居址検出面から土師器片が数点出土した。協議の結果、今回の開発に際して遺構への影響が認められないことから埋め土保存する運びとなった。

住居址検出風景

基本層序



枇杷坂遺跡群 18 調査全体図（1：1,000）

調査風景（東から）

試掘調査

15 樋村遺跡群２（隣接）

樋村遺跡群２位置図（1：10,000）

所　在　地　佐久市大字中込字樋村2207-2
外16筆

開発主体者　佐久建設事務所

開発事業名　道路改良事業

調査期間　平成12年7月21日～25日

面　　積　8,114㎡

調査担当者　出澤　力

立地と経過

樋村遺跡群は滑津川右岸の南東に広がる水田地帯に展開している。調査を行ったのは樋村遺跡群の西側に隣接し、付近を南北に走る滑津川に近い遺跡群より一段低い部分にある水田である。隣接する樋村遺跡群では昭和57・58年の発掘調査で弥生時代から平安時代にいたる住居址300軒が、また平成11・12年の調査では古墳時代後期の住居址が発見されている。

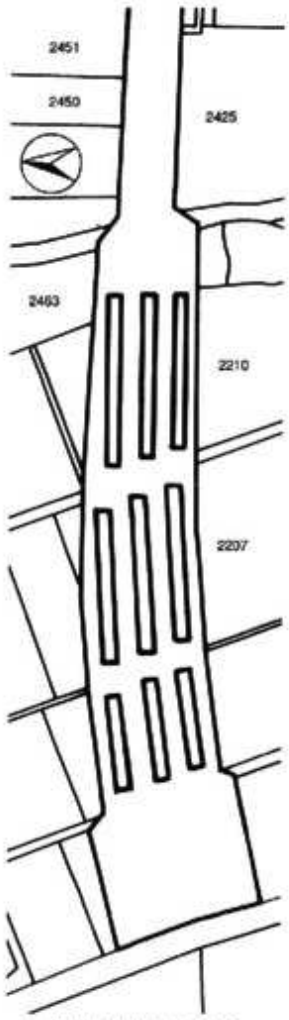
今回の試掘調査は佐久建設事務所が計画した道路改良事業、国道254号線佐久平賀バイパスに伴い平成11・12年度に行われた発掘調査部分とを結ぶ部分で、遺跡の有無を確認するために実施された。

調査の結果

調査区内にトレンチを9本設定し遺構・遺物の有無を確認した。

結果、水田の層の下は河川の氾濫の跡と思われる砂礫層が認められ、遺構・遺物ともに発見されなかった。

調査風景（東から）



調査全体図（1：5,000）

試掘調査

16 寺畑遺跡群８

所　在　地　佐久市大字猿久保字前原 728-2
開発主体者　秋山 豊次
開発事業名　個人住宅兼工場又は店舗
調 査 期 間　平成 12 年９月４日
面　　積　1,514 ㎡
調査担当者　上原 学

寺畑遺跡群８位置図（1：10,000）

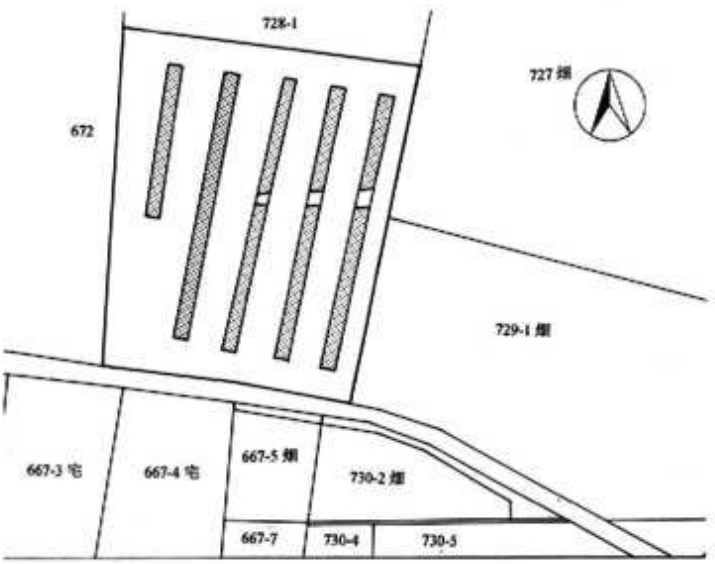
立地と経過

寺畑遺跡群は、佐久市猿久保地籍にあり、湯川の左岸段丘面上に展開する。標高は677～695mを測る。遺跡群内では、平成７年に佐久市による道路建設工事に先立ち寺畑遺跡及び遺跡群の北に隣接し遺跡の存在が不鮮明であった一段下の湯川左岸段丘面上において調査が行われた。これにより、寺畑遺跡では、縄文草創期の爪形文土器、弥生・平安時代の住居址が、北の隣接地域では、古墳時代から平安時代に至る住居址30軒の他、掘立柱建物址、土坑等が調査され、遺跡の密集地であることが判明し遺跡群の範囲が拡大した。この遺跡は仲田遺跡と称し、遺構内からは奈良時代の銅鏡（花卉双蝶八花鏡）、「－－寺」の文字を持つ墨書土器などが出土し、注目すべき遺跡となった。本調査区は、遺跡群の南東隅に位置し、西側には富士塚古墳が所在する。

今回、秋山豊次氏による個人住宅兼店舗建設が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

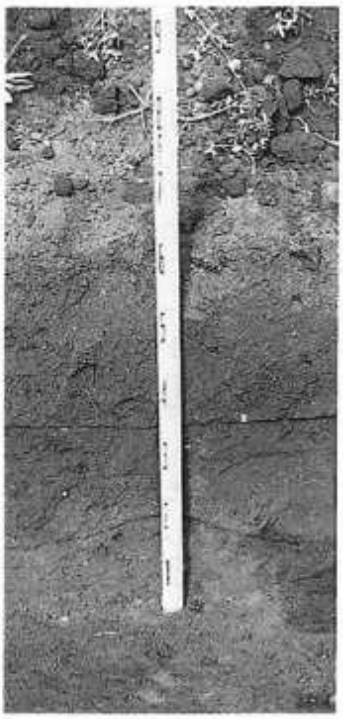
調査の結果

調査区に南北方向のトレンチ５本を設定し、遺構の確認を行った。その結果、調査区東側から調査区中央付近まで伸びる東西方向の溝１条を確認したが、今回の造成工事にあたっては、遺構への影響がないことから、埋め土保存する運びとなった。遺物は認められなかった。



寺畑遺跡群８調査全体図

調査風景（東から）



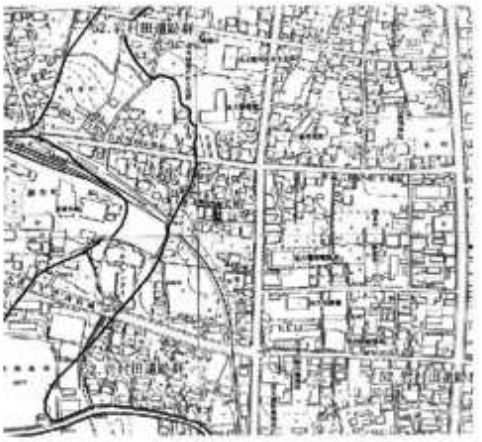
基本層序

遺構検出状況

試掘調査

17 岩村田遺跡群 26

所　在　地　佐久市大字岩村田字内西浦 1214-4 他
開発主体者　佐久市 区画整理課
開発事業名　土地区画整理
調 査 期 間　平成 12 年 9 月 6 日
面　　積　540 ㎡
調査担当者　冨沢 一明



岩村田遺跡群 26 位置図（1：10,000）

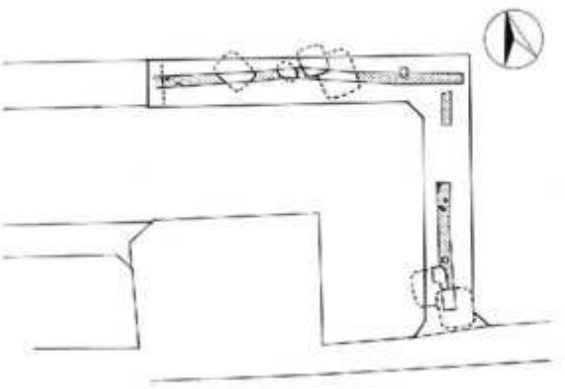
立地と経過

岩村田遺跡群は、岩村田市街地北半から仙禄湖東方まで展開しており、佐久市遺跡詳細分布調査等により弥生時代から中世にかけての大遺跡群であることが知られている。標高は702～737mを測る。北方の仙禄湖付近には湯川の他に濁川などの河川による田切が発達しており、急峻な谷が見られる。今回、佐久市区画整理課により岩村田西本町沿道土地区画整理事業が行われることになり、遺構の有無を確認するために試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

試掘調査の結果、対象地は南西側に緩く傾斜する地形であり、遺構確認面までの深さは20～50cmを測る。検出された遺構は弥生時代後期～平安時代の竪穴住居址と土坑、中世と考えられる溝状遺構である。調査の後保護協議がなされ、工事深度が遺構に影響する道路部分のみ記録保存を目的とする発掘調査が行われることとなった。

調査風景（西より）



岩村田遺跡群 26 調査全体図（1：1,000）

試掘調査

18 番屋前遺跡群 13

所　在　地　佐久市大字猿久保字番屋前 907-2
開発主体者　有限会社 新日本開発
開発事業名　集合住宅建設
調 査 期 間　平成 12 年 9 月 8 日
面　　積　675 ㎡
調査担当者　上原 学

番屋前遺跡群 13 位置図（1：10,000）

立地と経過

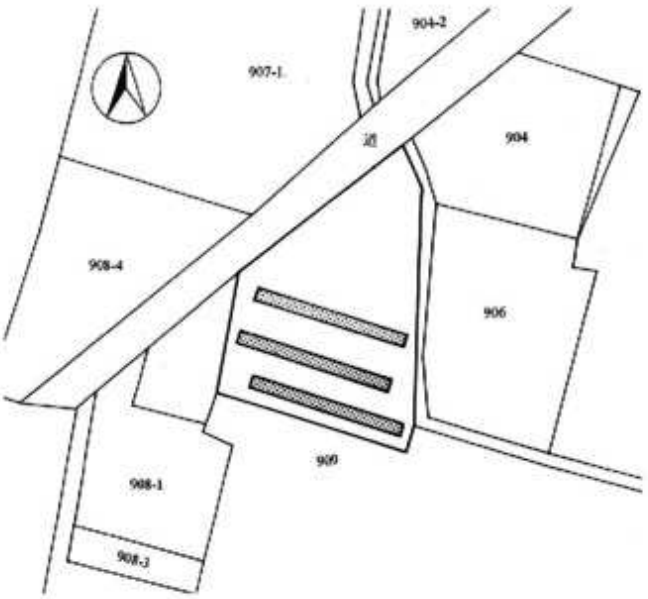
番屋前遺跡群は佐久市のほぼ中央大字猿久保及び中込原に所在し、湯川左岸に広がる台地上に展開する。標高は689～699mを測る。調査区は遺跡群の中央付近に位置する。

今回、有限会社新日本開発による集合住宅建設が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区に東西方向のトレンチ３本を設定し遺構の確認を行った。その結果、遺構・遺物ともに認められなかった。

調査風景（西から）



番屋前遺跡群 13 調査全体図（1：1,000）

立会い調査

19 中原遺跡群 25

所　在　地　佐久市大字三河田字蛇場道 403-5·6
開発主体者　樫山工業㈱
開発事業名　工場建設
調 査 期 間　平成 12 年 10 月 16 日
面　　積　540.05 ㎡
調査担当者　上原 学

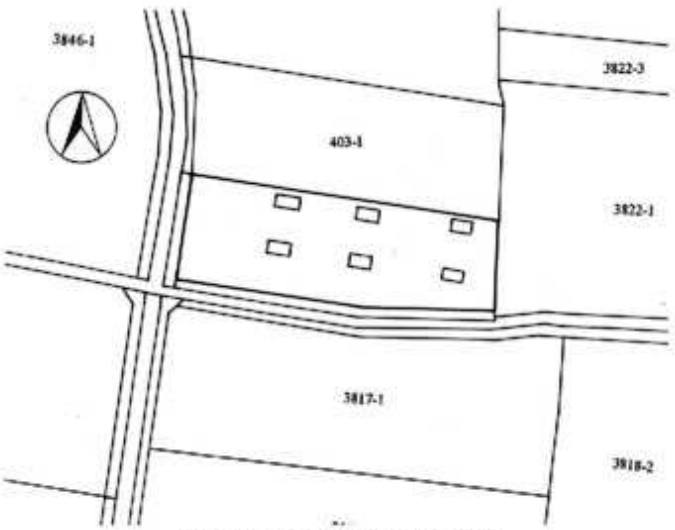
中原遺跡群 25 位置図（1：10,000）

立地と経過

中原遺跡群は佐久市のほぼ中央大字三河田に所在し、千曲川の支流である滑津川右岸の段丘上に展開する。付近の調査としては遺跡群の南において梨の木遺跡Ⅰ～Ⅳの発掘調査が行われ弥生時代・中世の遺構が確認されている。調査区は遺跡群中央のやや北に位置し、標高685mを測る。
今回、樫山工業による工場建設が行われることになり、遺構の破壊が予測される基礎部分について立会い調査を行った。

調査の結果

工場建設に伴い遺構の破壊が予測される基礎周辺の立会い調査を行ったが、遺構・遺物ともに認められなかった。



中原遺跡群 25 調査全体図（1：1,000）

調査風景（西から）

試掘調査

20 枇杷坂遺跡群 19

所　在　地　佐久市大字岩村田北一丁目 32-2
開発主体者　飯森 敬明
開発事業名　個人住宅兼店舗建設
調 査 期 間　平成 12 年 10 月 18 日
面　　積　268.6 ㎡
調査担当者　上原 学

枇杷坂遺跡群 19 位置図（1：10,000）

立地と経過

枇杷坂遺跡群は岩村田市街地の北西をおよそ南北方向に伸びる田切り地形の台地上に展開する。調査区は遺跡群の北に位置し、標高は738mを測る。調査区付近では佐久市による佐久市都市計画岩村田北部第一土地区画整理事業に伴う周辺の道路建設等に先立ち、上久保田向遺跡の発掘調査が行われ平安時代の住居址等が確認されている。

今回、飯盛敬明氏による個人住宅兼店舗建設が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査をおこなった。

調査の結果

調査区にトレンチ４本を設定し遺構の確認を行った。その結果、調査区内は1.5m前後の厚さで埋め土され、その下に黒褐色土、褐色土、黄褐色土（水性ローム）が堆積していた。遺構の検出は現地表から1.8m下の褐色土上面で行ったのち水性ローム上面まで掘り下げたが、遺構・遺物ともに認められなかった。また、水性ロームの堆積状況から旧地形は、北から南に向かって緩やかな傾斜地であったと考えられる。

枇杷坂遺跡群 19 調査全体図（1：1,000）

調査風景（西から）

試掘調査

21 岩村田遺跡群 27

所　在　地　佐久市大字岩村田字内西浦 1201-2
開発主体者　関東信越国税局
開発事業名　税務署庁舎増築
調 査 期 間　平成 12 年 11 月 24 日
面　　積　2,641.58 ㎡
調査担当者　羽毛田 卓也

岩村田遺跡群 27 位置図（1：10,000）

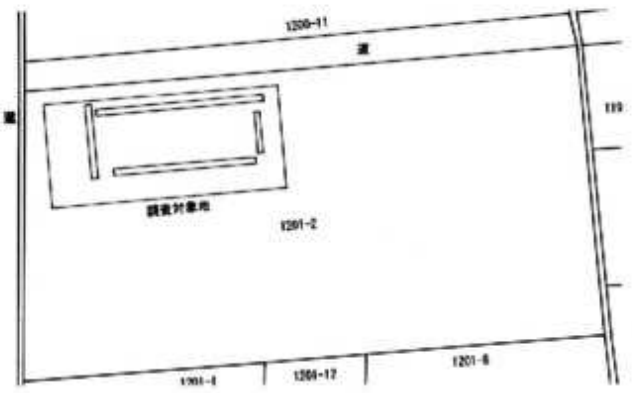
立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市の北方現岩村田市街地北半を南北方向に展開する弥生時代から近世にかけての複合遺跡群である。今回の調査地点は、本遺跡群の南西端、南下する帯状低地の標高709mを測る東側の台地上に位置する。また北接する平成元年度調査の内西浦遺跡Ⅰと南接する平成12年度調査の内西浦遺跡Ⅱで確認された中世期の集落と一体をなすと考えられる。

今回、関東国税局佐久税務所による庁舎増築工事が計画されたため、試掘調査により遺構有無の確認をする運びとなった。

調査の結果

コンクリート帯基礎により破壊が懸念される部分を中心にトレンチ4本を設定し遺構の確認を行った。その結果、深度90～94cmで埋め土される前の旧地表（旧水田面）に到達した。周囲の調査の状況から判断し、これより60cmほど下げると、中世の遺構確認面に到達すると考えられる。保護協議の結果、基礎は深度60cmまでであることなどの事由により、これ以上の掘削は対象地の建築物の特殊性も鑑み工事に影響があると判断され、調査せず、全面保存されることとなった。



トレンチ設定図（1：1,000）

トレンチ掘削状況（東より）

試掘調査

22 芝宮遺跡群 14

芝宮遺跡群 14 位置図（1：10,000）

所　在　地　佐久市大字長土呂 759-1
開発主体者　有限会社 栄公
開発事業名　展示場兼店舗建設事業
調 査 期 間　平成 12 年 12 月 5 日
面　　積　536 ㎡
調査担当者　出澤 力

立地と経過

芝宮遺跡群は佐久市長土呂に所在し、本調査対象地は急峻な田切りの低地に面した帯状台地上に立地する。田切り地形の帯状台地上にはこの芝宮遺跡群をはじめ、長土呂遺跡群、枇杷坂遺跡群といった古墳時代後期から平安時代にかけて大規模な集落址の存在が知られており、本対象地の周辺でも昭和63年度に南下中原・南上中原遺跡、平成５年度には南下中原遺跡Ⅱの発掘調査が行われている。

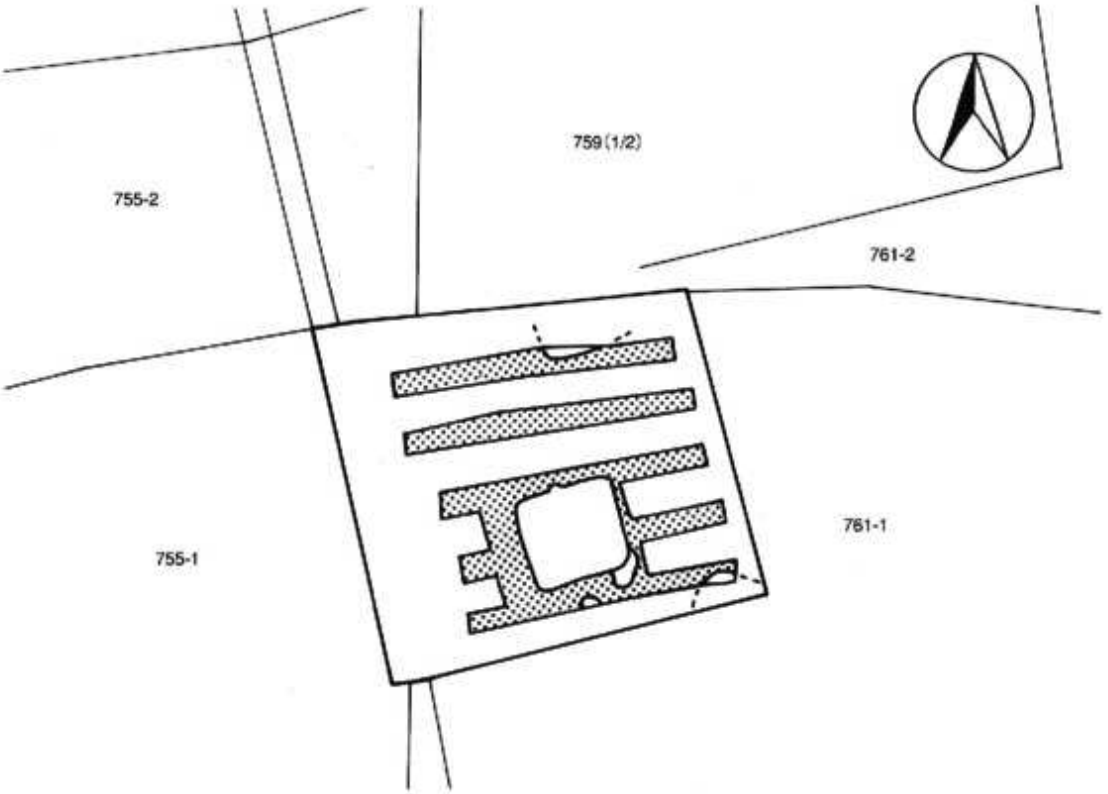
調査状況（東から）

今回、有限会社栄公により展示場兼店舗建設事業が計画され、事前に遺跡の有無を確認するため試掘調査が行われることになった。

調査の結果

調査対象地にトレンチ５本を設定し、遺構・遺物の確認を行った。耕作土を約30～50cm掘り下げた所のローム層から竪穴住居址３軒、土坑２基を確認した。調査区中央の住居址は出土した甕から古墳時代後期の住居址と思われる。

調査の結果を踏まえ保護協議が行われ、遺構にかかる建物部分については盛り土を行い遺構の保護を図ることとなり、建物の基礎工事時に立会い、遺跡の安全を確認した。



芝宮遺跡群 14 調査全体図（1：500）

調査状況（西から）

試掘調査

23 西近津遺跡群 4

所　在　地　佐久市大字常田字東池下
77-1 外 4 筆

開発主体者　社会福祉法人 山久会

開発事業名　ケアハウス新設

調 査 期 間　平成 12 年 12 月 6 ～ 8 日

面　　積　3,823 ㎡

調査担当者　出澤 力

西近津遺跡群 4 位置図（1：10,000）

立地と経過

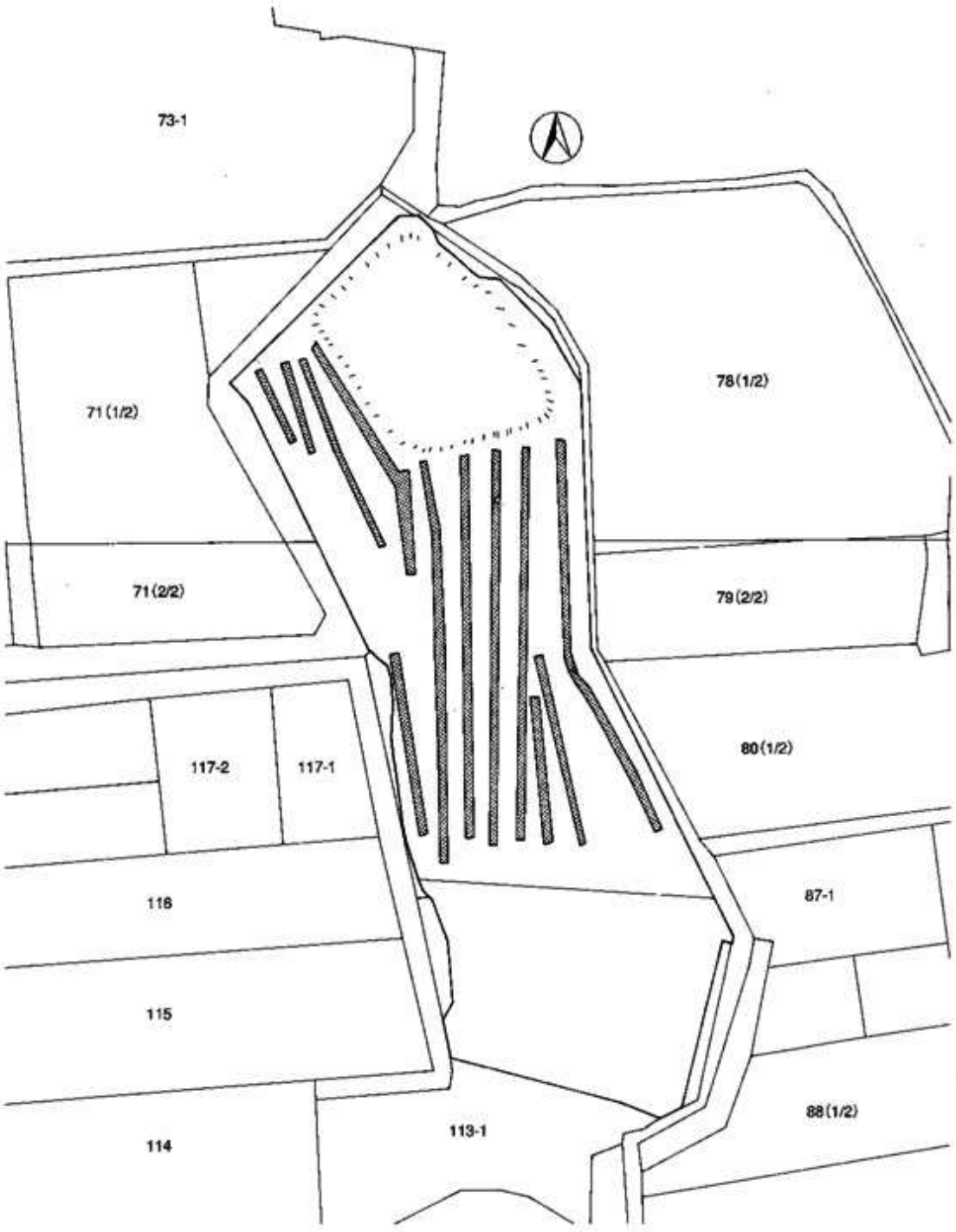
西近津遺跡群は、佐久市岩村田市街地の北西約1.2kmの台地上に展開し、本調査対象地はＪＲ中佐都駅の約300m西に位置する。水田の広がる対象地の周辺には火山活動によって形成された「流山」と呼ばれる小高い大小の小山が点在する独特の地形が見られ、対象地内の北端にも流山が存在する。

今回、社会福祉法人山久会によりケアハウス新設事業が計画されたため、事前に試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

調査区内にトレンチ13本を設定し、遺構・遺物の確認を行ったが、遺物は確認されず、遺構については表土下60～80cmに見られる塚原泥流の層より土坑２基を確認するのみであった。対象地北側の流山についても古墳墳丘の可能性を勘案し表土を除去したが遺構・遺物ともに確認されなかった。結果遺跡の破壊はなく、工事は着工されることとなった。

調査状況（南から）



西近津遺跡群4調査全体図（1：1,000）

試掘調査

24 潰石遺跡３

所　在　地　佐久市大字上平尾字潰石 232-5
開発主体者　柳沢 宴子
開発事業名　集合住宅建設
調 査 期 間　平成 12 年 12 月 12 日
面　　積　545.96 ㎡
調査担当者　出澤 力

潰石遺跡３位置図（1：10,000）

立地と経過

潰石遺跡３は、湯川の東岸の河岸段丘上に展開しており、標高はおよそ700m前後を測る。対岸には栗毛坂遺跡群が存在し、腰巻遺跡では古墳時代前期の資料が確認されている。

今回、柳澤宴子氏により遺跡内に集合住宅を建設する計画があり事前に試掘調査が行われることとなった。

調査状況（北から）

調査の結果

調査区内にトレンチ５本を設定し、遺構・遺物の確認を行った。表土より40～60cm掘り下げるとかつての水田層の下の河川に関係すると思われる礫を多量に含む砂質の層が現れた。

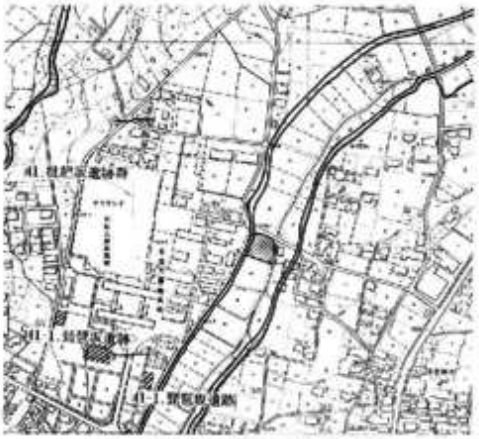
遺構・遺物ともに確認されなかった。

潰石遺跡３調査全体図（1：1,000）

試掘調査

25 中久保田遺跡6

所　在　地　佐久市大字岩村田字枇杷坂973-5
開発主体者　池田 秀男
開発事業名　集合住宅建設
調 査 期 間　平成12年12月19日
面　　積　1,088㎡
調査担当者　富沢 一明



中久保田遺跡6位置図（1：10,000）

立地と経過

中久保田遺跡は佐久市岩村田市街地の北西に位置し、枇杷坂遺跡群と岩村田遺跡群に挟まれた小規模な田切地形の中に存在する。この田切は仙禄湖の脇あたりから徐々に低くなり、北佐久農業高校付近で最も深くなり、台地との比高差は約2mほどを測る。過去、遺跡内で本調査された箇所はないが、試掘調査は仙禄湖周辺で数ヶ所行われており遺構・遺物ともに検出されていない。

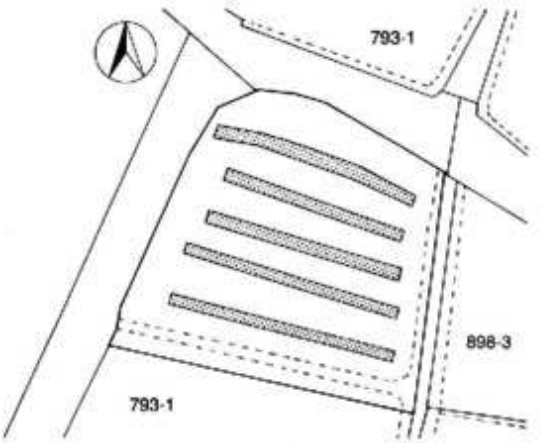
今回、池田秀男氏により集合住宅建設の計画が遺跡内でなされ、遺構の有無を確認するために試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

試掘調査の結果、対象地の基本土層は3層に別れ、第1層が現代の水田層、第2層が染付を含む水田層で近世の時期を想定できた。第3層は泥炭化した堆積土で自然木・木製品・青磁片・常滑片が出土し、中世に形成されたと考えられた。泥炭層までの深さは表土より1～1.4mであった。

調査の後、保護協議がなされ盛り土保存されることとなり、工事が着工された。

調査状況（西より）



中久保田遺跡6調査全体図（1：1,000）

試掘調査

26 白山遺跡群３

所　在　地　佐久市大字鳴瀬字白山 1377-2,1378-1
開発主体者　佐久市 児童課
開発事業名　児童館建設
調 査 期 間　平成 12 年 12 月 19 日
面　　積　1,003 ㎡
調査担当者　冨沢 一明

白山遺跡群３位置図（1：10,000）

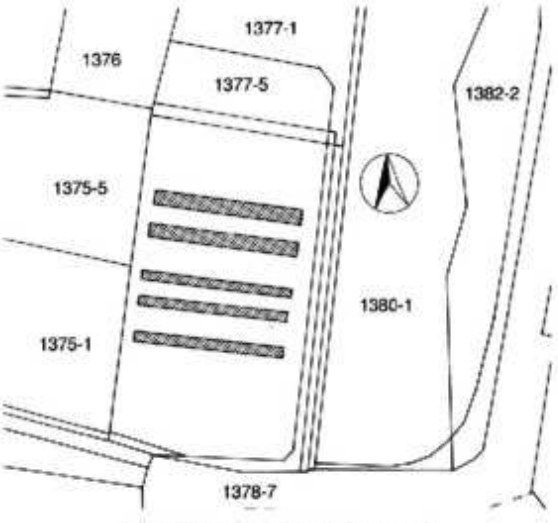
立地と経過

白山遺跡群は湯川左岸および千曲川右岸にあって、両河川の浸食を免れた東西に細長い台地上に位置する。標高は666～669mを測り、眼下の千曲川との比高差は30mである。東に隣接して古墳時代前期・平安時代の竪穴住居址５軒が調査された今井西原遺跡が、南西の断崖の対岸には今井城跡が存在する。今回、佐久市児童課により児童館建設の計画が遺跡内でなされ、遺跡の有無を確認するために試掘調査を行った。

調査の結果

試掘調査の結果、対象地の基本土層は３層に別れ、第１層が現代の耕作土であり、第２層が黒色土、第３層が鉄分の沈下が多い砂利混じりの堆積土であった。遺構確認面は第２層中と考えられたが遺構は検出されず、土器片が２点出土したのみであった。

調査状況（西より）



白山遺跡群３調査全体図（1：1,000）

試掘調査

27 長土呂遺跡群 4

所　在　地　佐久市大字長土呂字聖石 418
開発主体者　大蔵不動産株式会社
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成 12 年 12 月 25 日～ 28 日
面　　積　1,995 ㎡
調査担当者　出澤 力

長土呂遺跡群 4 位置図（1：10,000）

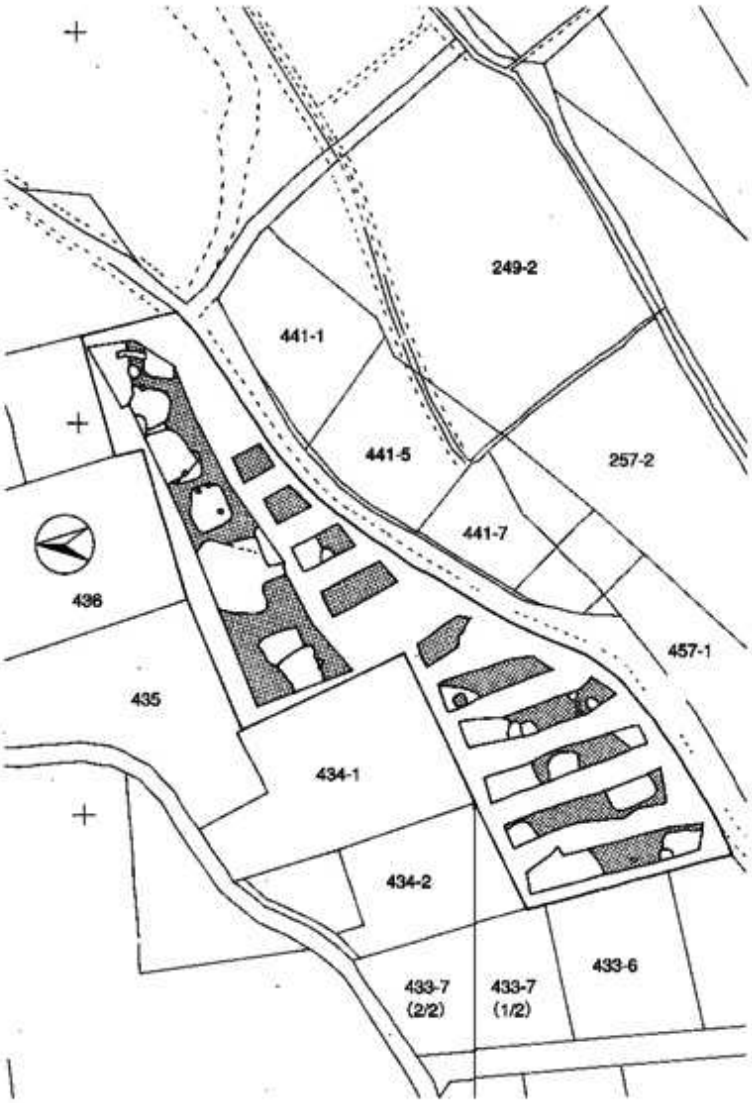
立地と経過

長土呂遺跡群は佐久市大字長土呂に所在する。調査対象地はいわゆる田切り地形によって形成される低地に面した帯状台地の縁辺に位置しており、その標高はおよそ716m内外を測った。対象地のある台地上の北方には古墳時代後期から平安時代にわたる佐久市でも屈指の大集落址である聖原遺跡が存在し、同様に他の帯状台地上でも芝宮遺跡群、枇杷坂遺跡群、周防畑遺跡群、近津遺跡群といった遺跡群が確認される。また、田切り地形は現在の佐久平駅付近で姿を失い田切りより流失した土砂が堆積した低湿地に変化する。そこでは弥生時代後期の集落跡が確認されており清水田遺跡・中仲田Ⅱ遺跡、濁り遺跡などの発掘調査が行われている。

今回、大蔵不動産株式会社により遺跡内で宅地造成の計画があり、事前に遺構の有無を確認するため試掘調査が行われることとなった。

調査状況（調査区南西側、東から）

調査状況（調査区北東側、西から）



長土呂遺跡群4調査全体図（1：1,000）

調査の結果

調査対象地にトレンチを11本設定し遺構・遺物の確認を行った。耕作土を除いた表土下60cmの面が遺構確認面で、低地に面した調査区南東側はローム層、それよりも高い位置にある調査区西側は黒色土層からそれぞれ遺構・遺物を検出した。確認された遺構は竪穴住居址24軒、土坑6基、ピット等である。特に、調査区北西側は遺構の密集が顕著で黒色土層上で確認された住居址は19軒を数える。遺物は遺構内より土器片が多数確認された。いずれも弥生時代後期に当たる遺物であり、住居址は弥生時代後期の物と考えられる。住居の分布状況は調査区より北西側、つまり帯状台地上に弥生時代後期の集落址の存在する可能性を示している。

調査の結果を踏まえ保護協議が行われ、遺構の破壊を免れない調査区西側の農道に面した部分のみについて記録保存のため発掘調査が行われることとなった。

試掘調査

28 野馬窪遺跡群２

所　在　地　佐久市大字猿久保字野馬窪 185-1,182-2
開発主体者　長野県経済事業農業協同組合連合会
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成 13 年 1 月 9 日～ 15 日
面　　積　1,268 ㎡
調査担当者　須藤 隆司

野馬窪遺跡群２位置図（1：10,000）

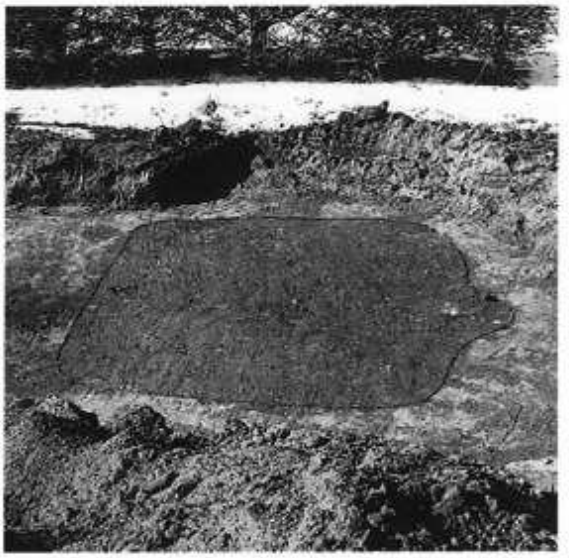
立地と経過

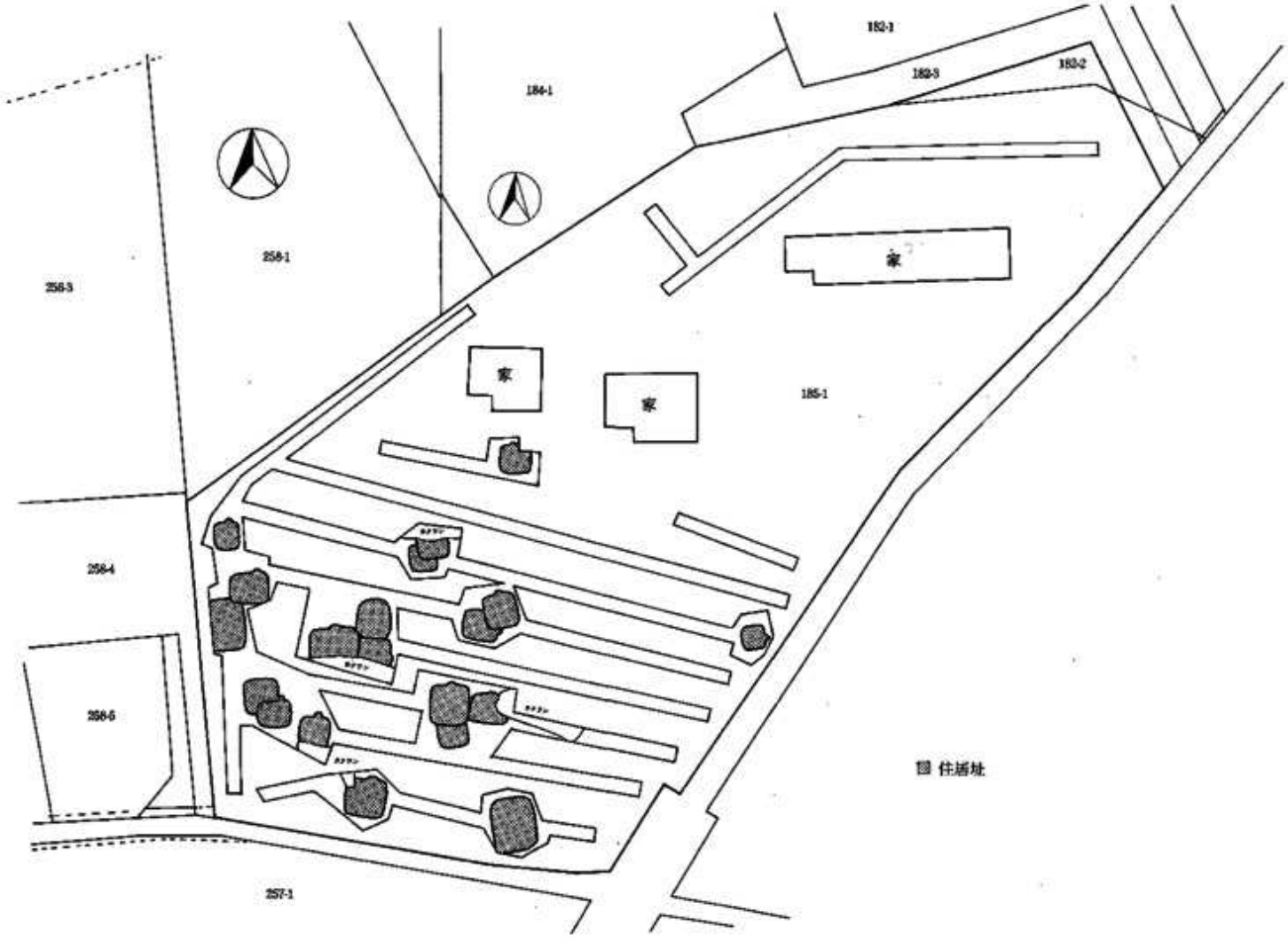
野馬窪遺跡群は佐久市大字猿久保地籍に所在し、湯川に西端を侵食された火砕流台地に立地する。今回、長野県経済事業農業協同組合連合会による宅地造成が本遺跡内に計画されたため、試掘調査を実施した。

調査の結果

重機掘り下げによるトレンチで遺構・遺物の確認作業を実施した。その結果、弥生・古墳・平安時代の住居址20軒が検出された。従って、開発事業により遺構の保存が不可能な場合は本調査の必要性が生じたが、開発の見直しが行われ当面遺構を破壊する開発は実施されない運びとなった。

調査状況（東から）


住居址検出状況（東から）



野馬窪遺跡群２調査全体図（1：800）

試掘調査

29 岩村田遺跡群 28

岩村田遺跡群 28 位置図（1：10,000）

所　在　地　佐久市大字岩村田字六供後3598-1外3筆
開発主体者　大塚菊次郎
開発事業名　集合住宅建設
調 査 期 間　平成 13 年 1 月 16・17 日
面　　積　2,786 ㎡
調査担当者　冨沢 一明

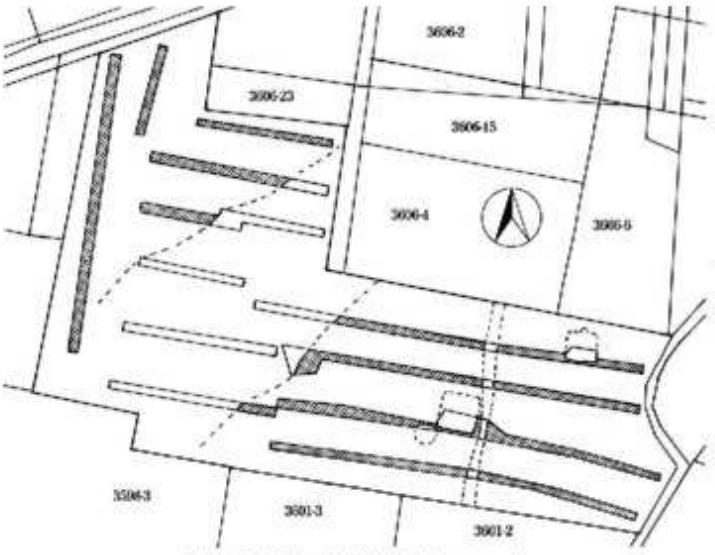
立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市の北部、現在の岩村田市街地を中心とする遺跡群である。当遺跡群の特徴は中世に佐久地域で活躍した大井氏の居城であった黒岩城・王城・石並城跡や中仙道の宿場町として栄えた岩村田宿の中心街などがあることから、中世～近世にかけての遺跡が非常に濃密に広がっていることである。今回、遺跡群内に大塚菊次郎氏により集合住宅建設の工事が計画され、遺構の有無の確認のため試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

調査の結果は調査区東側で奈良・平安時代の住居址 2 軒、溝状遺構、土坑等を検出した。また西側は自然の流路跡考えられる落ち込む地形が確認された。調査の結果を受け保護協議を行ったが、一部設計変更を行い影響の及ぶ遺構のみ記録保存を目的とする調査を行う運びとなった。

調査風景（東から）



岩村田遺跡群 28 調査全体図（1：1,000）

試掘調査

30 常田居屋敷遺跡群 7

所　在　地　佐久市大字塚原字下大豆塚 164-1
開発主体者　有限会社 産恵
開発事業名　宅地造成
調 査 期 間　平成 13 年 1 月 24 日
面　　積　2,078 ㎡
調査担当者　冨沢 一明

常田居屋敷遺跡群 7 位置図（1：10,000）

立地と経過

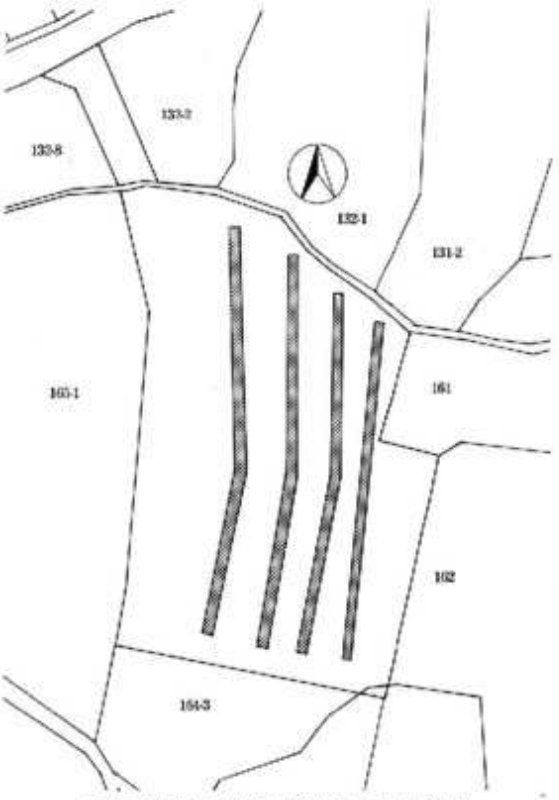
常田居屋敷遺跡群は佐久市の塚原地籍のほぼ中央に所在し、周辺には浅間山の火山活動により形成された「流れ山」と呼ばれる残丘が島状に点在している。周辺部で調査された遺跡としては藤塚遺跡・藤塚古墳群・姫子石遺跡・濁り遺跡等がある。

今回、遺跡内に有限会社産恵により宅地造成が計画されたため、遺構の有無確認のための試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

調査地点に 4 本のトレンチを設定し調査を行った。その結果、対象地は全体が東から西に傾く低地であり、地表下50cmからは泥炭化した黒色土が検出され、その下40cmからは赤岩泥流の上部と考えられる礫層が確認された。遺構・遺物は検出されなかった。

調査状況（北より）



常田居屋敷遺跡群 7 調査全体図（1：1,000）

試掘調査

31 樋橋遺跡

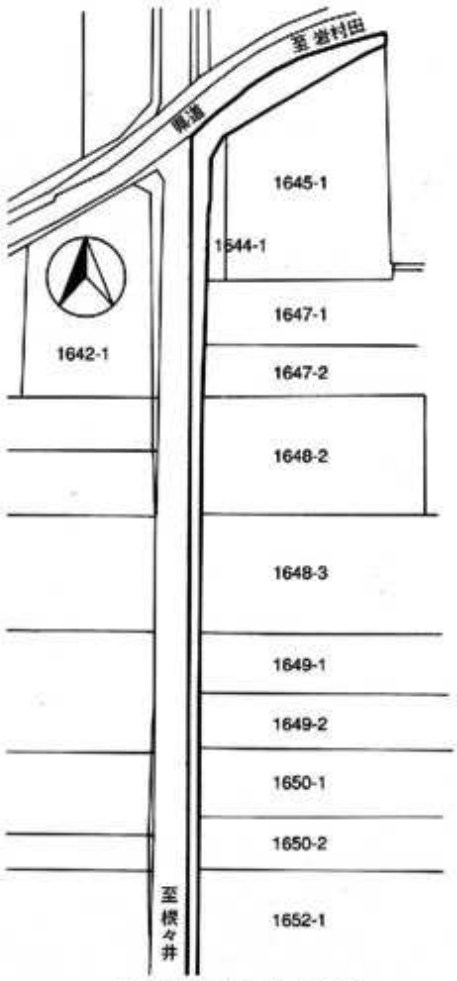
樋橋遺跡位置図（1：10,000）

所　在　地　佐久市大字岩村田字樋橋 1645-1，
1647-1·2，1648-2·3，1649-1·2 他
開発主体者　佐久市高速交通課
開発事業名　道路改良事業
調 査 期 間　平成 13 年 1 月 24 日～2 月 9 日
面　　積　1,000 ㎡
調査担当者　林 幸彦

立地と経過

樋橋遺跡は濁り川の左岸にあり、標高 687.2 m を測る。樋橋遺跡の西側一帯には、塚原泥流の分布域で小丘が数多く存在する。樋橋遺跡の一部が平成12年 4 月に調査され、この小丘上から弥生時代の土坑が 1 基検出されている。本遺跡の西方 100 m には、西一里塚遺跡があって弥生時代後期の集落と環濠が調査されている。昨年度に続き、佐久市高速交通課が行う市道改良に先立ち試掘調査を実施した。

トレンチ掘削状況



樋橋遺跡全体図（1：2,000）

調査の結果

調査対象地に、幅 1 mのトレンチを既存道路に平行に設定し、遺構の有無を調査した。表土下50cmで浅間第一軽石流（P1）に至った。時代不詳の幅 3～4 mの溝状遺構が 1 本検出された。

立会い調査

32 久禰添遺跡２

所　在　地　佐久市大字太田部306-2，302-3
開発主体者　宮川 雄司
開発事業名　個人住宅兼作業場建設
調 査 期 間　平成13年２月１日
面　　積　45㎡
調査担当者　上原 学

久禰添遺跡２位置図（1：10,000）

立地と経過

久禰添遺跡は佐久市の南、臼田町との境界から千曲川右岸に沿って北に展開する。標高は688ｍ内外を測る。遺跡内では平成９年から平成12年にかけて県道川上佐久線の緊急道路整備事業に伴う調査が行われ、弥生時代から近世の遺構・遺物が確認された。特に遺跡の南に位置する通称離山と称する独立した丘陵の北側山麓付近から多くの遺構が認められた。

今回、宮川雄司氏による個人住宅兼作業場建設が行われることとなり、遺構の破壊を防ぐため立会い調査を行った。

調査の結果

調査区内において、建物基礎部分の掘削作業に立ち会った結果、遺構・遺物ともに認められなかった。

立会い風景（南西から）

久禰添遺跡２測量全体図（1：1,000）

立会い調査

33 上の城遺跡群７

所　在　地　佐久市大字岩村田字上ノ城2786
開発主体者　佐久市
開発事業名　公衆トイレ建設
調 査 期 間　平成13年2月16日
面　　積　5㎡
調査担当者　上原 学

上の城遺跡群７位置図（1：10,000）

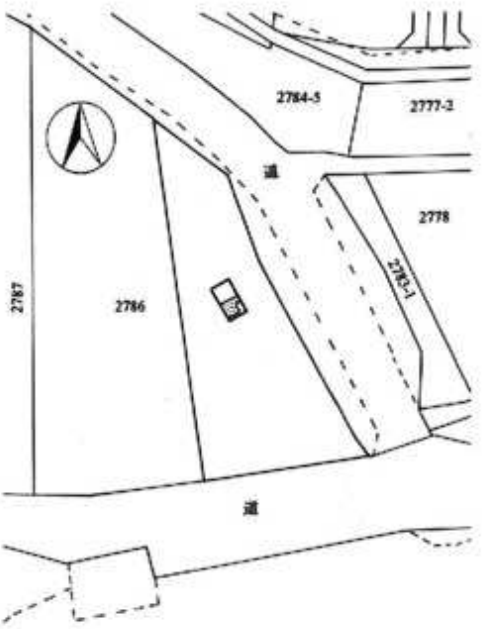
立地と経過

上の城遺跡群は佐久市岩村田市街地の北東隅に広く展開し、標高700～410mの湯川右岸に広がる台地の北東部に位置する。遺跡群内の代表的な遺跡は、台地の東端付近のやや標高の高い地域（岩村田小学校周辺）に近世の藤ケ城跡を上げることができる。また遺跡群の北には中世に佐久市北部を中心に勢力を振るった大井氏の居城とされる大井城（北から石並城・王城・黒岩城）が所在し、昭和54～61年にかけて周辺の道路整備に先立つ発掘調査が行われ、中世の遺構・遺物が確認されている。

今回、佐久市によって藤城神社内に公衆トイレが建設されることとなり、遺構の破壊をさけるため立会い調査を行った。

調査の結果

立会い調査の結果、現地表から30～80cmは埋め土整地された表土で、この直下に黒色土、明褐色土、黒色土、黄褐色土が堆積していた。黄褐色土上面までの深さは2.3m内外を測り、遺物は土師器・須恵器片が僅かに出土した。調査地域は台地の縁辺部に位置し地山と思われる黄褐色土まで2m以上の深さを測ることから、黄褐色土上の土は、以前低地帯であった地域に台地上から流れ込み堆積した土と考えられた。



上の城遺跡群７調査全体図（1：1,000）

調査区全景（南から）

立会い風景

土層断面

試掘調査

34 周防畑遺跡群 11

所　在　地　佐久市大字長土呂字一ッ長田 1727-2･5
開発主体者　松澤 茂喜
開発事業名　集合住宅建設
調 査 期 間　平成 13 年 2 月 26 日
面　　積　150 ㎡
調査担当者　上原 学

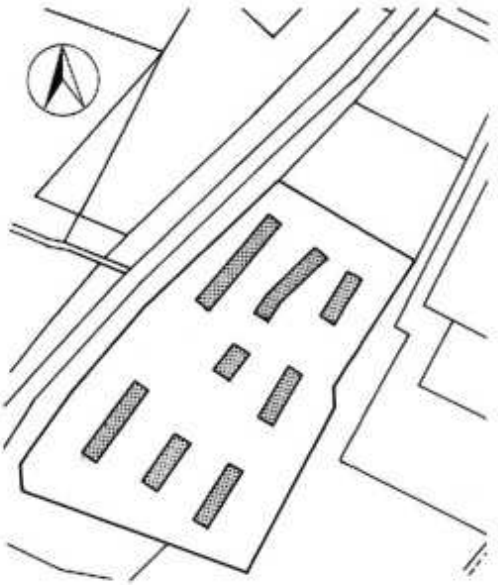
周防畑遺跡群 11 位置図

立地と経過

周防畑遺跡群は佐久市北の長土呂地籍にあり、北方の浅間山の麓から放射状にのびる田切り地形の台地上に展開し、弥生時代から平安時代の遺構・遺物が確認されている。調査区は遺跡群の南に位置し、標高707m内外を測る。

今回、松澤茂喜氏による集合住宅建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査風景（南から）


周防畑遺跡群 11 調査全体図（1：1,000）

調査の結果

調査区に南北方向のトレンチを８本設定し、遺構の確認を行った。その結果、調査区は近年、旧地形上面に２m内外の埋め土が行われ、現地表から50cm内外には弥生土器・土師器・須恵器片を含む耕作土が、周辺または他地域から持ち込まれていた。
遺構確認面は旧地表下の褐色土及び黄褐色の水性ローム上であったが、埋め土時に行われたものか、激しい撹乱を受けていた。このため撹乱部は地山まで掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。

また今回の調査から、調査区内の旧地形は南にやや傾斜し、東西方向の台地に比して低い低地帯と考えられる。